

同窓会報



鳥羽商船同窓会

〒517-8501
三重県鳥羽市池上町1番1号
TEL (0599) 25-8045
FAX (0599) 25-8128
携帯電話 090-7612-2979
振替口座番号 00850-6-846

令和元年特集投稿記事 「我等! 鳥羽商船」



名古屋港寄港の外航客船「ダイヤモンド・プリンセス」
提供：名古屋港利用促進協議会

◆ 目 次 ◆

特集「我等! 鳥羽商船」前編	2	NPO法人故郷の海を愛する会	19
同窓会会長挨拶	7	学校だより	21
学校長挨拶	9	支部だより	23
平成30年度本部会務報告	10	クラス会	26
令和元年度本部会務計画	10	その他投稿記事	30
平成30年度会計報告	11	特集「我等! 鳥羽商船」後編	31
令和元年度予算	11	事務局だより	32
令和元年度同窓会役員理事	12	会員の異動等	33
同窓会の活動	12	寄付金・会費納入一覧	36
特集「我等! 鳥羽商船」中編	14	校歌・船歌	39



特集

「我等! 鳥羽商船」 前編

海難史上最多の戦没者と 残酷な惨状で撃沈された 「阿波丸」を追憶する

加藤 卓雄
昭和15年 機関科卒



「運命の女神は、人間が彼女の計画に逆らう行動をとろうとすると、その者の心を見えなくする」これは、政治学者・歴史家マキアヴェリーがローマ盛衰の歴史に因み、引用した古代ローマの歴史家リウイウスの言葉である。

我が国は、この言葉に当てはまるかのように1人の海軍長官の作戦の暴挙と私情を国家の外交に用いた1人の外務大臣により戦争に突入した。これが太平洋戦争である。

我が軍は前線の各地において、兵火力と食料が欠乏し、惨々たる敗北を重ねている時、米国は東南アジアに点在する捕虜収容所などに、捕虜、抑留者等に衣類、食料、医薬品などの救恤品を供給したいと申し入れ、我が国はこれを断っていたが、最終的に応じた。そしてその任務に阿波丸（日本郵船11,294トン）が就くことになった。阿波丸に対して連合国は、「安導券」を与え交戦地域において、連合国は攻撃しないと宣旨され各国司令部に通報された。

これと関連してE15土屋高虎君と同級の筆者が、我が国最大の豪華客船 浅間丸（日本郵船16,975トン）のエンジニアに抜擢され其々主要パートを担当していた。

日米大決戦をフィリピン本土で行うべく多数の兵士を投入しつつあった。浅間丸も4,500人（50隻分）の海軍将兵を送るべく2隻の空母に護衛され長崎から4日間の航程でマニラに入港していた。

その4日間二人には知らされないで、二人の内1人を東京本社に転任させるよう海務監督命令が出た。本船の幹部は、この命令は受け入れられないと拒否し、4日間の航程は過ぎたが、転勤先の船名も知らされず、背後に大きな力が働いている事を仄聞し、遂に人事異動命令を受け入れることになった。



出典：(復刻版船舶百年史、編者：上野 喜一郎 出版社：(株)成山堂書店、原書：船舶百年史、発行出版社：有明書房)

そして、土屋は拙者を浅間丸に残してもらいたいと庇い不本意ながら土屋が転勤することを受諾した。土屋はマニラ到着の翌日早朝、海軍航空基地から空路DCの便を利用して東京に旅立った。ところが数日後、土屋から音信があり、今度も安導券を持った阿波丸に乗ることになり半年間生命がのびた。こんなことであれば君に代わってあげればよかったと思っていると。

そして、私は、命在天にあり、仕事に誠心をもって頑張りたいと書簡をおくった。

かくして、阿波丸は、安導券を明示する為、船体に緑十字・白十字のマークを描き、夜でも識別可能な派手なイルミネーションを施した。

そして、門司港において、ソ連ナホトカからの連合国救恤品800トンを積込み、寄港地に向うべく針路を南にとった。そして、第一の寄港地香港に入港、荷揚げを行い、次のサイゴンに向う、サイゴンで荷揚げ中、はからずも土屋は海軍司令部員、時岡信一中尉（N12）と会う。二人の会話の中からこの船も危いと重要な想定がなされ、深夜を徹して話をしていった。そして次なるジャカルタに入港、荷役を終え、最終の寄港地シンガポールに3月15日入港した。シンガポールで最終的荷揚げを行い、任務を完了すると、全乗組員が喜びの乾杯をなし、これより内地の敦賀までの復航となるが、安導券は、有効であった。従って、この船を利用して帰国する公務員・民間人は1,900名に達していた。そんな時、シンガポール海軍司令部より船長への出頭命令が出された。浜田船長が出頭すると、伊沢中佐ら数名の参謀らに対話する如く控えていた。そして、伊沢中佐が浜田船長に申入れた。伊沢等には至上命令があり「日本軍の飛行機・艦船は燃料潤渇で攻撃できない。安導券をもった阿波丸であるが、国家存亡の危機にあり、これを無視してガソリン重油を内地まで運んでもらいたい。」と言葉は丁寧であったが、浜田は愕然とし、これを拒否した。併し、伊沢は日吉からの命令であ

る事をほのめかし、再三、浜田に迫っていた。浜田はダモクレスの剣を突きつけられた危機に陥り、遂に伊沢らの申入れに屈従した。そして、阿波丸は、戦略物資ガソリン1,100トン、重油3,600トンを内地まで搬送することとなった。阿波丸は、3月25日の出港が荷役作業で、3日遅れ3月28日未明出帆となった。

そして、阿波丸が戦略物資を積んで内地へ向ったとの情報が連合軍各艦船に通報され、その時哨戒区域にあった米潜水艦クイーン・フィッシュ（艦長ラフリン少佐）にキャッチされ、追航を緩めず、雷撃を狙っていて台湾海峡で雷撃、阿波丸は、瞬時にして沈没した。浮上して見た潜水艦乗員は、劫火となって燃える一漕四方の海に隙間なく横たわる死体と微塵となった船体の破片にあまりの凄惨さに挙って十字架を切り黙礼した。安導券を有していながら阿波丸は、昭和20年（1945）4月1日午後11時13分、東経119度19分、北緯23度15分、台湾海峡で撃沈された。

死者1,900人（大部分海難船員）便乗者、142乗組員、生存1人（サロン・ボーイ）であり殉職の中に、土屋高虎君と便乗者の中に多くの遭難船員が含まれ、痛恨の極みであった。この悲惨な海難は有史以来最大のものである。

追慕 殉職した親友の遺影に捧ぐ



左 上村君
右 土屋君

昭和18年4月15日
呉

土屋 高虎 君（静岡県出身）

安導券を有する阿波丸（11,294トン）に二機士として乗組。台湾海峡において、米潜の雷撃で沈没。昭和20年4月1日死去

上村 藤四郎 君（鳥羽出身）

当時最大のタンカー建川丸（10,009トン）の三機士として乗組。「あ号作戦」に参加、ミンダナオ島ヤポング沖にて、空・海の攻撃により沈没。昭和19年5月24日死去

（この手記は、一人の生存者を除いて生存者皆無の情態で、あらゆるデータを拾集し、関係生存者と連絡をとり、取材したもので真正近いものとして閲読されたい。）

筆者九十七歳

加藤 卓雄 氏のプロフィール

大正10年9月、現松阪市生まれ

昭和15年官立鳥羽商船席上課卒業、練習課に進む、全国官立商船学校統合教育第1期生として横須賀海兵団に入隊、各術科学校及び練習艦迅鯨に派遣、軍事教育。

横須賀海軍工廠、同空技廠にて技術教育（空母翔鶴・艦装・公試参加）

昭和17年8月、同校卒業、日本郵船、海軍運輸部へ出向、海軍予備士官。

昭和22年労働省入省、第一回労働基準監督官試験に合格。三重大学講師併任。労働基準監督官に任官。

退官後精糖会社総務部長。

歴史研究者として著書多数。

航海に明け暮れた人生



裏山 惣一

昭和19年 航海科卒

見よ！東海の空明けて。昭和16年、輝かしき新年を迎えた我ら榊原高等小学校生徒は、校庭から神宮遙拝を済ませて一同は村の鎮守・式内射山神社へ参詣、玉串奉奠をした後だった。

鳥羽商船航海科に「合格」という吉報が届いた。競争率10倍以上の難関と聞いていただけに「本当？やった！」という感動が身を震わせた。我が念願の空明けて、だった。

*

桜咲く4月、入学式に父に連れられて鳥羽に向かう。鳥羽は同じ三重県だけど異国のように遠く感じた。鳥羽に着くと新入生らしき若者が泊まっていた「志摩館」から、次々と出てくる人たちと商船学校へ向かった。遠くから集まってきたのだろう、言葉が違う。それぞれ土地の方言で喋っていたのであろうが、自分には標準語に聞こえ、小さいときから馴染んできた自分の言葉が恥ずかしく、田舎者独特の



伊勢三河湾水先区水先人会

小久保 又五郎 (S38N) 家田 和良 (S39N) 池上 義孝 (S40N)
成田 寛太郎 (S41N) 横山 良一 (S42N) 小林 司 (S43N)
大野 義和 (S44N) 池山 薫 (S47N) 伊庭野 紀弘 (S47N)
中村 道夫 (S47N) 岩本 正直 (S49N) 大濱 輝久 (S49N)

引け目すら覚えたことだった。晴れて入学式。

富岡外雄校長の祝辞「諸君は多数の志望者より選ばれ本校生徒となる……」そのときの感激は78年経った今も生々と蘇る。

そして班別に分けられて寮生活に入った。気仙沼の日野君、千葉の勝又君、静岡の鷲尾君、神戸の戸田・山本君など、全国から集まった級友たちとの初顔合わせだった。

*

この年、12月8日米英に対し宣戦布告され風雲急を告げた。我々も要員として繰り上げ卒業となり、昭和19年日本郵船に入社、翌年2月には戦火酣の海へ道志丸(2,275トン)で乗り出した。

航海は支那・朝鮮方面へ、軍事物資の輸送任務であった。道志丸最後の航海になったのは、朝鮮羅津海軍軍人151名を送る途中のことだった。

昭和20年7月27日の未明、対馬北端の比田勝港に船影を潜めて避泊していたところ、敵のグラマン戦闘機2機に察知され、爆弾2発の攻撃を受けたが、輸送中の勇敢な兵士が1発の不発弾を拾い甲板から海に投げ込んだ。そのおかげで我々は命拾いをし、乗組員全員が無事だった。熾烈な機銃掃射で戦死傷者横たわり、正に阿鼻叫喚地獄の様相だった。戦争は激しくなるばかり、連日の空襲を避けながら次なる指令を待つうちに、8月15日の玉音放送で敗戦を知ることとなった。

*

真っ黒に日焼けの顔、破れの目立つ服、靴底は外れてパカパカと口を開けている。道ばたの蔓草で縛って歩くこと1里半、やっとわが家へたどり着いた。「ただいま！ただいま！」『どなたですか？』と母の声。音信不通が長く、帰らぬものと覚悟していた母の顔には、吹き出るような涙が光っていた。

それからの時代の変り様は早く、日本郵船に30年近く勤めたのち、伊勢湾諸港に入港する船舶が増加することから、伊良湖水道より伊勢湾、三河湾方面の水先人が要望されて、伊良湖水先人会が発足し、私は当時の衣浦水先人会の門をくぐった。

*

それから何年か経ち、伊勢湾海難防止協会を最後に自適の身となった。齢79歳を数えていた。今は健康のため散歩中、疲れが出ると旧校歌 ♪ 渺茫遠く 戸涯みなき…… を口ずさみ、老体を鼓舞している今日この頃である。

練習船に依る戦没者遺骨収集の航海

漆山 順三

昭和29年 航海科卒



出典：(復刻版船舶百年史、編者：上野 喜一郎 出版社：(株)成山堂書店、原書：船舶百年史、発行出版社：有明書房)

今を去ること、半世紀以上前、当時練習船実習生で有った私は、練習船大成丸(二世)に依る昭和30年(1955年)1月12日～3月19日に渉る67日間の、南太平洋ガダルカナル島ホニアラ、ニューブリテン島ラバウル、ブーゲンビル島ブイン及びパプアニューギニア各地の激戦地を巡る、戦没者の遺骨収集と慰霊の航海に参加した。

当航海の内容は、富山商船学校卒業生(N46期)の有井俊隆氏に依る「南太平洋戦没者遺骨収集の記録」に詳述されている。それ故、紙面の関係もあり詳しくは記述を避けるが、私にとって実に衝撃的な場面の連続で有り実習生のみならず乗組員すべてにとって忘れることの出来ない鎮魂の航海であった。ソロモン諸島ガダルカナル島のホニアラでの遺骨収集作業では、ジャングルの奥ポハ河(日本軍はこの川を坂東川と称した)の川岸近く昼猶暗い密林の兵站病院(病院とは云え実情は、ニッパ椰子の粗末な小屋、良くてテント張りてあったであろう)の跡に



直径3～4米深さ約50種の穴が数箇所あり其々の穴には数個の髑髏が窪んだ目を虚空に向けていた。当初は塚状に盛り上がったが、10年の時の流れに陥没したものと思われる。この悲惨な光景に、空腹と戦闘の果てに無念の戦死を遂げた



伊勢三河湾水先区水先人会

田中 俊彦 (S50N)
町 裕次 (S52N)
西濱 卓己 (S54N)
門奈 克明 (S62N)

鶴飼 幹夫 (S52N)
森内 芳卓 (S52N)
増島 忠弘 (S54N)

畑内 康孝 (S52N)
鈴木 晴敏 (S54N)
原 秀男 (S56N)

兵士の魂の慟哭が聞こえる様な気がして、おのずから手を合わせるばかりであった。

アドミラル諸島、ニューブリテン島のラバウルでは、街の東南東の半島にあるカルデラ火山のダブルブル火山（日本軍名は花吹山）の山麓の灌木を開いた旧海軍墓地には、終戦後捕虜収容所で亡くなった兵士、戦犯で処刑された人々も含まれ、墓標の読める遺骨は遺骨ごとに、氏名不詳の遺骨（処刑者は墓標すら無し）は一箇所にまとめて火葬、収容した。

私自身は、この集骨作業で数人の墓を担当したが中には台湾義勇兵「何某」更には東部ニューギニアの作戦を指導した第十八軍「猛」集団司令官 安達二十三中将の墓もあった。安達中将は、ムッシュ島の捕虜収容所に於ける兵士全員の復員を見届けた後ラバウルの戦犯収容所に於いて、昭和22年9月10日「人として堪え得る限度を遥かに超越せる克難敢闘を要求」した事への謝罪を述べた遺言を認めた後、肥後守で割腹自裁した人、豪州当局も敬畏を表したのか、この人の墓は他の墓よりも一層深く遺骨に達するのに苦労したのを覚えている。

ラバウルの象徴であるダブルブル火山は、その後度重なる噴火の為、新市街が建設され旧市街は降灰の下に放棄されたままであり、実習生達が汗を流した旧海軍墓地も今は降灰や流れ出した溶岩の下であろうと思われる。パプアニューギニアのウエワクでの集骨作業での私は、本体と別のグループに加わり現地人の案内で飛行場南方の丘の向こうの病院跡で集骨作業を行い、作業中私はドラム缶が埋められているのを掘り出し、中から木箱詰め多数の小指の骨と思われる小さな骨や頭髮、同じく多数の名前が記載された患者名簿を発見、遺骨は1,200体とも1,500体とも数えられ、集骨の効果が上がった喜びと同時に、小指を切り取られた時の状況を種々想像して暗然たる想いにかられた。

本航海では、後の横井伍長や小野田少尉同様戦後も現地に残留し数か月前に発見され投降した、元日本兵4名を収容、故郷に連れ帰った。

遺骨収集航海は、ビスマルク諸島、マヌス島東端のロスネグロス島での集骨作業と慰霊祭を以て終了し東京への航海を開始した。

本航海の翌年、大成丸は昭和31年6月再び西部ニューギニア及びボルネオ方面の遺骨収集航海に就航している。この航海での記録は、当時大成丸次席二等航海士であった、元航海訓練所船長橋本進氏に依る「白い虹」（前中編及び最終回）に詳しく述べ

られている。また戦後の練習船に依る遺骨収集は、大成丸に限らず昭和28年1月13日から3月19日迄南方八島（マークス島＝現南鳥島、ウェーク島、サイパン島、テニアン島、グアム島、アンガウル島、ペリリュー島、及び硫黄島）への戦没者慰霊及び遺骨収集航海が最初であった。

これら三度の航海に於ける冷房の無い船内での船務、実習と併せて湿気と猛暑のジャングルでの遺骨収集作業に挺身した実習生たちの努力と苦労は、記憶されてしかるべき事ながら、他方では戦時体験者の少なくなった令和の世にあって、広島・長崎の悲劇と相俟って、実習生・乗組員及び派遣団等が現地で目にした悲惨な情景を、今一度一般の人々にも理解されて、反戦の礎となればと思う。



翻って、後年平成4年から5年にかけて、山下新日本汽船運航の便宜置籍船に船長として乗船、ニューギニア・マウン

トマングスイ～日本への材木輸送に従事していた私は、毎航海復航に於いて、ソロモン海を航行するとき、前記の縁もあり酒、煙草等を用意し、これらを海中に投じて供養するを常としていたが、ある航海に於いていつもの様に供物を供え、「未ださ迷う魂が有れば、この船で帰りましょう」と島々に呼びかけ、心経を唱え終って、ふと振り返ってみると、フィリピンの若い青年航海士が、直立不動で私の細やかな慰霊祭に参加してくれて居た。

【参考図書】

有井 俊隆氏「南太平洋戦没者遺骨収集の記録」

<https://www.zensenkyo.com>) ikotsu

橋本 進氏「白い虹」（前・中編・最終回）

<https://www.zensenkyo.com>) shiroiniji



写真は最近の漆山氏。
自転車で同窓会事務室
によく立ち寄ってくだ
さいます。事務局 西山



東京湾水先区水先人会

坂崎 清 (S40N)

飯野 実 (S44N)

藤本 良夫 (S51N)

中川 敏 (S40N)

石川 富朗 (S47N)

木場 弘幸 (S53N)

三村 徳蔵 (S40N)

高木 春男 (S49N)

我が ヨット人生

(株)ムロオ 取締役相談役

山下 文徳

昭和41年 機関科卒

自分の船をもって約40年、最近は棧橋を歩くのもやっとなというくらい体力が落ちた。

55年ほど前、休みには学校のA級デンギーを操り、カッター帆走でイルカ島や二見ヶ浦まで昼飯分として配られた、菓子パン一個と牛乳を持ち、出かけたことを未だ懐かしく思い出す。

若さにまさるものは無し。「タッキング用意・ブーム中央・ジブレッコー」「ジブ風上」「シート替え」当時は操帆下手であった私も広島に帰ってからヨットに夢中になり、地元の草レースや、鳥羽パール、アリランや済州島レース等の国際レース等々年間10回以上のレースをこなしここ20年くらいはレースの主催者として運営の手助けをしている。広島近辺には商船学校が3校もあり、ヨットに興じているものが少なからずおり、その彼らから「先輩、先輩」と慕われるのも悪い気がしない。余談ながら3校を訪問したことがあるがゲレンデとして最高に素晴らしいところにあるのが弓削商船のある島であった。商船5校が再編して2校に絞られるとしたら、鳥羽と弓削……怒られるかな？

今の船で6隻目であるが、この間色々なことがあった。一つ前の船をアメリカから輸入したときは神戸港で港湾ストライキに会い、コンテナ船から降ろせないところ、同期の平井節男君に無理を言ってストライキ破りをして貰ったり、ハワイのホノルル市長さんあてに平岡広島市長さんの親書を届け、ハワイヨットクラブの会員に推薦されてサタデー・ナイトレースに同乗、アラモアナのヨットクラブからワイキキの夜景を楽しみながら真珠湾口の灯浮標を回ったことなどがある。いずれも、我が国がバブルに浮かれている頃の話である。そうそう、今から25年ほど前の日韓親善アリランレース（釜山～博多）出場は40艇弱、韓国は3艇だけ、オリンピック用に作ったヘイウンダイの立派なハーバーにはスクラップ同然の船が3隻あるのみ、優越に浸ったものだが、10年ほど前は一杯で、湾岸には高架道路が走り、釜山港や街が立派になり、人々の顔に自信が感じられ

た。それが昨今の韓国の日本蔑視にまで……。

広島国体のヨット競技は呉で行われ、私は海上支援チームの総指揮者としてコース設定や観覧艇運行の監督をした。もちろん三重県チームや鳥羽の後輩に差し入れもした。

私のヨット界における立ち位置も、我が社の拡張に合わせたように上がり、NORC西内海支部初代呉フリートCAP、今はJSAF外洋西内海会長で去年設立50周年記念を海自総監、海保部長、市長等を招待し華々しく挙行了した。主な行事としてこれが最後かな。

これからは若かりし頃を回顧し舟歌に涙しよう。

令和元年7月10日



写真は上・下対馬をつなぐ満ノ関大橋をくぐり浅茅湾経由で釜山に向かう愛艇鯨丸で舵を持つ小生、もう一枚はホノルル市長の椅子を拝借、もちろん市長の薦めにより



校祖・近藤真琴先生と戦没先輩の慰霊碑に 感謝と畏敬の念を

同窓会会長 **菅沼 延之**
S48N(88期)



去る6月の年次総会にて、会長職2期目の付託を
謹んでお受けしました。

今期の方針は、次の通りです。

1. 本校の担当部署と連携しながら、同窓会組織
を活用し、受験者の勧誘活動を実施する。
2. 攻玉社同窓会との関係を、これまで以上に密
にする。
3. 全日本船舶職員協会との関係強化を図る。
4. 同窓会歌の策定を検討する。

であります。1期目の活動も含め、進めてまいります。
さて標題につき、以前から持ち続けてきました
思いを皆様にお伝えします。

明治の礎・近藤先生が世界を見据え苦心惨憺の末、
故郷・鳥羽の海に打ち立てた理想と志を偲ばずして、
我ら母校と同窓生の存在はありません。

私は母校へ還る度、必ず先生の碑前にて頭を下げ
母校の発展と卒業生・在校生の諸縁吉祥を祈念して
おります。明治14年8月の創立から間もなく140年
を迎えます。私の思いは、明治8年9月12日、先生
が航海測量習練所を創設された時をもって母校の歴史
が始まったものと捉えています。140年の間には
一時期、廃校の危機にも遭いましたが、本校は、財
閥系の三菱商船学校や他の工業系高専とは、創設の
理念が全く異なります。我ら同窓生は誇りを持って、
歴史の重みに思いを馳せ、近藤先生や諸先輩方に感
謝と畏敬の念を今一度、注ぎたいものです。



兄校に当る攻玉社（明治6年建学）は、毎年秋に
高等学校2年生全員が鳥羽の本校を訪れ、記念碑と
同窓会館を見学して下さいます。修学旅行先である
奈良・京都へ直行するのが普通の行程ですが、わざ
わざバスに乗り換えて来校して下さるのです。校祖
を偲ぶ皆様の姿を拝見し、私共の対応はとて十分
とは思えず恥じ入っている次第です。

今年も11月11日に来校して下さいます。今回
は攻玉社と鳥羽商船の関係を世に知らせるべく、同
窓の廣耕太郎様（現三重県議会議員）のご尽力によ
り、新聞社の取材を計画しPRする予定です。

この6月総会には、攻玉社の同窓会長・木村利雄
様にもご臨席、ご挨拶もいただきました。

一方、本会報が皆様のお手元に届く前の10月5日、
私も攻玉社を訪問し在校生1,500名の前で、攻玉社
と鳥羽商船の繋がりについて講演の運びとなってい
ます。攻玉社輩出の著名人は数多く、広瀬武夫・海
軍中佐（日露戦争で活躍、旅順港にて戦死、軍神と
謳われた）、佐久間勉・海軍大尉（第六潜水艇長、
遭難時のご遺書は教科書にも掲載されました）、鈴
木貫太郎・海軍大将（侍従長、大東亜戦争を終戦に
導いた内閣総理大臣）、近年においては、日本人初
の宇宙飛行士・秋山貴寛様が、よく知られています。
近藤先生という偉大な校祖を共に仰ぐ古の縁を両校
は大事にしていかなばなりません。

さて、もう一つ同窓生の皆様に訴えたい事があり
ます。先生記念碑の傍にある慰霊碑（昭和44年10月
建立）をご存知でしょうか。正面に「慰霊」（皇大
神宮大宮司・徳川宗敬様による大書）裏面に楠井栄
八郎様（本校元国語教官、新校歌作詞者）による追
悼文が書かれています。それは、先の大東亜戦争の
戦没者を含めた本校ご関係者や先輩1000柱の方々
へ捧げたものです。

戦没船員の慰霊碑としては、横須賀市観音崎公園
頂上のものが有名で「安らかにねむれ わがともよ
波静かなれ とこしえに」と書かれています。来年
50回目の追悼式には、今上陛下がご行啓されるかも



内海水先区水先人会

本山 幹夫 (S38N)
青山 保 (S42N)

島田 愛水 (S42N)
谷口 誠 (S56N)

武藤 兼廣 (S42N)
大濱 啓司 (S60N)

しれないと聞き及んでいます。

当時の船員は戦死率が異常に高く、実に60,579人、喪失船舶は商船2,400隻に加え、具体的な統計が残らない機帆船、漁船を合わせれば、約7,200隻に上るそうです。戦中、無防備の商船と船員は敵の攻撃に晒され続けました。それぞれの持ち場で奮闘、そして散華されていった諸先輩の航跡を偲ぶとき、後世に生かされた我ら後輩は、せめて校内に鎮座される慰霊碑に感謝を捧げなくてはなりません。思い起こせば、前号会誌の最終頁にて、「3,600秒の空白」を書き記しました。昨年8月1日、当時の東宮様が行啓された折りの事です。それは叶わぬ夢であったかもしれませんが、もし「慰霊」の碑前に臨まれ戦没者の御霊にお弔いされる事があったならば、生きるものも含め犠牲となられた諸先輩方に、どれだけ心の安らぎをいただけた事でしょうか。校内でのご予定全て決定済みにつき時既に遅きに失すと思う前に、後からでも良い、何故それを学校側に上申できなかったのか。私は深い悔悟と自責の念にかられ、万死に値するという思いを、刻んだ次第です。



この2年間、各地の同窓会に極力、出席させていただきました。そして、直接従軍された方や内地への引揚げ帰還者移送を練習船で携わった方など、ご高齢の大先輩のお話を聞く機会がありました。その時「同窓会は、君の双肩にかかっている。頑張りなさい。」と激励して下さい、戦後生まれの私にはただ有難く嬉しいお言葉で、新たな力をいただきました。この会誌に、従軍された大先輩の回顧録が掲載されています。ぜひ拝読下さい。

色々な歴史とご体験をお持ちの先輩とお会いする機会があれば、どうか感謝と畏敬の念を持ってお迎

え下さい。

母校は現在、工業系と商船系の二つの流れがあります。会長として工業系の在校生、卒業生に申し上げたい事は、あらゆる分野で世界の技術革新は止まることを知りません。我が国は工業先進国とされていますが、現時点で世界の潮流に乗り遅れている面が多々あります。これを克服する為には、社会人になっても知恵を働かせ知識の吸収に貪欲であって下さい。又、商船系の在校生、卒業生においては、今時こんな教育体系を採っている学校はありません。寮生活や練習船で体験した力は、一般社会においても、陸の河童になっても十分通用する筈です。

二つの大きな流れも、別々の川ではありません。母校が源流である事を心に留めて下さい。同窓会も今後一層あなた方と共に歩む道を作っていきますので、どうぞ参画して下さい。水の一滴は、せせらぎから谷へ、川から大河となり、大海へと続いていきます。大先輩を敬い後輩には暖かい手を差し伸べる事により、更に大きな歴史と流れを共に創っていきましょう。そして、社会のお役に立つ事を祈念して会長挨拶とさせていただきます。



懐古に想うこれらの言葉いつの世代から

いつまで受け継がれてたのだろうか……

船乗りは、スマートで、目先が利いて几帳面、負けじ魂、これぞ船乗りです!



和歌山下津水先区水先人会

畑 辰幸 (S51N) 清水 貢 (S56N)



鹿島水先区水先人会

郡 茂典 (S50N) 大原 智喜 (S57N)

学校長挨拶

林 祐司



平成27年に全国の出生数が100万人を下回ったというニュースが流れました。3年後の平成30年の全国出生数は91万人となり、少子化が急速に進行していることが分かります。

1. 入学試験

そのような状況下で、全国の国立高専51校は、優秀な受験生の獲得に心血を注いでいます。高等教育機関にとって、優秀な学生の獲得は最大の関心事で、鳥羽商船高専の商船学科（定員40名）および情報機械システム学科（定員80名）の今年度の入試倍率は、教職員および同窓会会員のご努力の結果、前者が1.65倍、後者が1.89倍で平均1.81倍となり、国立高専の全国平均値1.74倍を僅かに上回っています。多くの高専は、入試倍率2倍以上の受験生の獲得が目標で、その達成により、その後の5年および5年半の修学期間中に、より高度で充実したカリキュラムの運用が可能となり、結果として出口の就職先、進学先が学生の希望に沿ったものとなるのです。

2. 教職員の働き方改革

文部科学省は、平成29年12月に「学校における働き方改革に関する緊急対策」を発表しました。それによると、学内の業務の役割分担の適正化や、勤務時間に関する意識改革と時間外勤務の抑制のための必要な措置を講ずることとしています。

本校では前段に関する入り口問題で、入学後の支援のために教職員の支援業務が恒常的に発生しており、本来業務の授業のほか、授業の遅れを補完する学修支援室の教育活動および寮生の安全・安心を担保するための学生寮の当宿直、並びに課外活動支援・指導に多大な時間を費やしているのが現状です。一例として他高専の学生寮の当宿直回数は平均0.5回/月ですが、本校の学生寮の当宿直回数は平均1.5回/月です。余裕のない予算環境下で外注できるものは、質の保証を担保しつつ外注に変えていこうと検討しています。

3. トピックス

(1) 練習船鳥羽丸の代替新造船

5商船系高専練習船は、船齢26歳の大島丸を筆頭

に、弓削丸、鳥羽丸、若潮丸（富山高専）、広島丸であり、鳥羽丸も船齢25歳となっています。このたびの練習船更新にあたり、5商船系高専が1校1隻の旗印の下、一枚岩となって文部科学省高等教育局専門教育課に要望書を提出し、本年5月には第1回の説明会が文部科学省で開かれました。要求している練習船のスペック（（ ）内は現行の鳥羽丸の値）は、全長60m（40m）、船幅12m（8m）、総トン数440G/T（244 G/T）の船ですが、今後の折衝次第で、新造時機やスペックが変更になる可能性が存在します。

(2) いのちを育む教育事業

最近のデータによると、高専生の自死率は21人/10万人と云われ、高等教育機関のなかでも群を抜いて大きな値を示しています。この現状に鑑み、学生の生きる力を醸成するために、本校では5月に演劇鑑賞会を開催しました。演目・劇団は、「ヘレン・ケラー ～ひびき合うものたち～」・「東京演劇集団 風」で、第二体育館で本科学生を主体に約2時間の鑑賞をしました。それぞれの学生が多くのことを感じ、考えたと思います。鑑賞後のアンケートでは75%の学生が満足したという結果が分かりました。次年度以降も予算捻出に努力して、第2回目の鑑賞会を開催したいと考えています。

(3) グローバルエンジニア

育成事業プロジェクトへの提案

本年の機構本部の提案するグローバルエンジニア育成事業プロジェクト（平均1,000万円×最長5年）に対して、本校は2件（基礎力部門、高度化部門）を提案しました。書類審査およびヒアリングを経て、本年9月上旬には採択か否かの結果が出る予定です。

- 1件目はグローバルエンジニア育成事業（基礎力部門）で、提案題目は「海外連携校との遠隔でのペア・プログラミング実施による国際的なコミュニケーション能力向上」です。本提案では、ニュージーランド国のオタゴポリテクと連携し、遠隔学生とWebアプリケーション開発を題材に、ペア・プログラミングの機会を設けることで、英語によるコミュニケーションスキルの獲得を目指すというものです。
- 2件目はグローバルエンジニア育成事業（高度化部門）で、提案題目は「世界の海で活躍する海洋底掘削技術者の育成」です。本事業は、船舶職員養成に特殊技術教育を付加し、世界の海で活躍できる海洋底掘削技術者を育成することを目的とするものです。

4. 最後に

末筆ながら、皆様の母校は、新しい時代と多様な世界を先取りし、鳥羽商船高専と学生の未来を開拓しようと努力しています。同窓会会員の皆様には、弛まぬご支援をいただけますよう、御願いをして学校長挨拶といたします。

本部報告

平成30年度本部会務報告

①会議

- イ) 理事会 平成30年6月3日 10:20～11:40
大阪第一ホテル<マルビル> 6階
☆出席理事37名(委任状含む)
- ロ) 総会 平成30年6月3日 11:50～12:20
場所同上
☆出席会員100名 来賓3名
- ハ) 支部長会 平成30年9月8日 13:00～15:00
名古屋駅前 名古屋会議室
母校県外入学者募集支援の為、中部、近畿、東日本支部理事が名古屋に集まり、林校長、石田副校長、事務部長の出席の元、同窓会の支援、協力を快諾し早速行動開始。

②会報発行

平成30年10月1日 会員約3,800名に発送

③事務局主要活動

- 4月19日 総会案内発送作業
事務局、伊勢志摩支部会員10名参加
- 5月15日 戦没・殉職船員追悼式
東日本支部2名参加
- 5月19日 攻玉社同窓会総会
菅沼会長、岩田理事出席
- 6月3日 理事会、総会、懇親会
大阪第一ホテル 関西支部主催
- 7月～12月 故郷の海を愛する会イベント開催
詳細は19～20頁参照
- 8月1日 皇太子殿下母校御行啓
菅沼会長他伊勢志摩支部会員

- 8月～ 同窓会報発行準備着手
事務局、伊勢志摩支部理事
- 9月24日 商船学科卒業式 式の参列
同窓会への加入説明会、祝賀会実施、
1級海技士資格取得者11名に奨励金11万支給
- 10月5日 同窓会報発送作業
伊勢志摩支部会員、事務局8名参加
- 10月20日 課外活動支援金・報奨金24万支給
- 10月21日 母校海学祭
伊勢志摩支部有志が飲食店2店出店
- 11月16日 攻玉社学園高校1年生250名来校
菅沼会長他伊勢志摩支部理事出迎え
- 平成31年3月17日 M・I科・専攻科卒業式
式の参列、同窓会への加入説明会、
祝賀会実施、TOEIC600点以上の者
1名に資格奨励金1万支給

令和元年度本部会務計画

令和元年4月～令和2年3月

- 4月3日 入学式
- 4月～ 総会案内発送準備発送
- 5月～ 理事会・総会会議資料作製
- 5月11日 攻玉社同窓会出席 会長・東日本支部
- 6月2日 理事会・総会(活動報告に記載)
- 6月～ 国立高専商船学科合同進学ガイダンス
東日本・関西・西日本支部

7月以降の活動計画

- 7月～ 同窓会会報作成準備
- 7月25日 故郷の海を愛する会イベント 98名
JMU津造船所見学と鳥羽丸体験航海
- 8月1日 同上イベント2回目を実施 50名
- 8月～ 同窓会会報編集作業
- 8月20日 故郷の海を愛する会イベント
四日市港と火力発電所の見学
- 9月23日 商船学科卒業式参列、祝賀会実施
同窓会入会案内、手続き
- 10月 同窓会会報発送作業
- 10月27日 海学祭支援、同窓会の出店
学生支援奨励金の授与
- 12月14日 故郷の海を愛する会イベント
母校の施設見学会並びに体験学習会。
- 3月15日 工学科(I科、M科)卒業式参列、
祝賀会実施



平成30年度会計報告

自 平成30年4月1日 ～ 至 平成31年3月31日

会計報告は令和元年6月2日母校視聴覚教室に於いて開催の理事会、総会で承認されました。

現金・預金

※比較増減＝期末－期首

勘定科目	期首金額	収入	支出	期末金額	比較増減
現金	0			0	0
普通預金計	3,379,272	14,498,936	15,227,992	2,650,216	-729,056
定期預金計	21,371,775	1,130	0	21,372,905	1,130
現金・預金合計	24,751,047	14,500,066	15,227,992	24,023,121	-727,926

収入の部

※比較増減＝決算金額－予算

科目	30年度予算	決算金額	比較増減
会費	3,100,000	3,406,560	306,560
寄付金収入	810,000	784,500	-25,500
スポンサー広告	270,000	220,000	-50,000
雑収入	1,963,000	1,917,158	-45,842
受取利息	12,448	1,148	-11,300
預かり金	0	30,700	30,700
収入合計	6,155,448	6,360,066	204,618

支出の部

科目	30年度予算	決算金額	比較増減
負担金	650,000	610,000	-40,000
総会費	1,468,000	1,329,618	-138,382
会報・会員名簿	1,585,000	1,539,088	-45,912
対外活動費	231,000	241,000	10,000
支部活動費	512,000	512,000	0
旅費交通費	460,000	512,748	52,748
事務消耗品費	241,000	237,381	-3,619
会議費	0	0	0
会務運営費	289,496	238,133	-51,363
外部委託費	600,000	600,000	0
特別予算	300,000	1,079,784	779,784
特別予算	100,000	100,000	0
雑支出	20,000	88,240	68,240
支出合計	6,456,496	7,087,992	631,496

30年度会計監査報告

平成30年度期初、期末の銀行等の残高証明の確認を行い、30年度収支に関しては領収書、各銀行などの出納記録と照合して監査した結果、正確かつ適正であったことを認めます。

令和元年5月21日

会計監査 武部二三男



会計監査 竹川 俊



令和元年度予算

自 平成31年4月1日 ～ 至 令和2年3月31日

収入の部

※比較増減＝令和元年予算－実績

科目・内訳	30年度実績	元年度予算	増減比較
会費	3,406,560	3,400,000	-6,560
寄付金収入	784,500	780,000	-4,500
スポンサー広告収入	220,000	190,000	-30,000
雑収入	1,917,158	1,420,000	-497,158
受取利息	1,148	1,148	0
預かり金(会費・名簿等)	30,700	0	-30,700
収入合計	6,360,066	5,791,148	-568,918

支出の部

※比較増減＝令和元年予算－実績

科目・内訳	30年度実績	元年度予算	増減比較
負担金	610,000	650,000	40,000
総会費	1,329,618	1,490,000	160,382
会報・会員名簿	1,539,088	850,000	-689,088
対外活動費	241,000	231,000	-10,000
支部活動費	512,000	512,000	0
慶弔費	0	0	0
旅費交通費	512,748	510,000	-2,748
事務消耗品費	237,381	102,000	-135,381
会務運営費	238,133	295,542	57,409
外部委託費	600,000	600,000	0
特別予算1 (本校紹介活動等に適用)	1,079,784	200,000	-879,784
特別予算2 (OBカッター大会支援)		150,000	150,000
特別予算3 (プロコン等支援)	100,000	100,000	0
雑支出	88,240	100,000	11,760
支出合計	7,087,992	5,790,542	-1,297,450

★予算は収入と支出がほぼ同額となるように立案しました。

★前年の実績に比べて支出合計が約130万少ないのは、前年皇太子殿下下行啓に際して校舎の洗浄費用の提供が無いこと及び会員名簿の作成費が無い事が主な要因です。

★特別予算2は、OB等がカッター大会に参加する場合の支援として今回新たに計上しました。

年々会費の収入は減少の傾向で有ります。
会員の皆様のご協力よろしくお願ひします。

令和元年度 同窓会役員・理事

※ 黄色は新任 ※ 灰色は退任
※ ()内数は前回数 ※ 赤字は理事会での承認後決定

本部

会長	1	菅沼 延之	S48N	特別顧問	林 祐司	学校長	
副会長 (4)	3	藤本 昌之	S42N	(3)	伊藤 友仁	副校長	
		田中 潔	S52N		山内 浩一	事務部長	
		加塚 伸吾	S52E		江崎 隆夫	S44E	
		室 博也	S55N		溝井 昇	S42E	
相談役 (5)	5	江崎 修央	H4M	(8)	三井 健次	S43E	
		古川 昭一	S30E		江尻 潜	S48E	
		桑嶋 収平	S31N		濱地 安実	S47E	
		菅原 昌男	S33N		山口 伸輔	S48N	
		松浦 肇	S36N		木下 勝	S49E	
会計	1	中澤 昌信	S37N	事務局長	西山 明	S50E	
		西山 明	S50E		畑 辰幸	S51N	
会計監査	2	武部二三男	S38N	1	北端 大志	H8N	
		竹川 俊幸	S42E		小島 智恵	H14N	
名誉顧問 (3)	3	落合 弘明	元同窓会長	学校連絡	1	小島 智恵	H14N
		菱田 司	元同窓会長				
		田中 三郎	前同窓会長				

★令和元年6月2日の理事会において、伊勢志摩支部、関西支部の理事数の増加変更について承認議決され運営細則が下記のように改定されました。
下記は該当する運営細則第4条で、改訂された理事数を赤字で示します。

※括弧内の数字は改訂前の数

(理事)
第4条 各支部選出の理事数については当面次のとおりとする。

(1) 東日本支部	11名
(2) 中部支部	6名
(3) 四日市支部	5名
(4) 伊勢志摩支部	15名 (14名)
(5) 関西支部	8名 (7名)
(6) 西日本支部	2名

理事総数の上限は50名以内とする。

附則
1、この細則は令和元年6月2日から施行する。

支部

東日本支部 10(11)			伊勢志摩支部 15(14)		
支部長	水野 正治	S43N	支部長	三井 健次	S43E
理事	福山 道夫	S41N	理事	大西 章夫	S36N
	岩田 仁	S38E		川口 心也	S40E
	飯島 寿	S41E		溝井 昇	S42E
	田中 三郎	S42N		江崎 隆夫	S44E
	大橋 泰夫	S48N		濱地 安実	S47E
	奥田 宣夫	S48E		山口 伸輔	S48N
	水野 博之	S48N		木下 勝	S49E
	富岡栄一郎	S48N		西山 明	S50E
	大橋 秀章	S49N		畑 辰幸	S51N
	菅原 秀樹	S51N		塩野 明俊	S56E
稲益 義久	S51N	齋心 俊憲	H1M		
星野 芳昭	S52E	江崎 修央	H4M		
真治 正章	H8N	小島 智恵	H4N		
中部支部 6(6)			関西支部 8(7)		
支部長	山川 博之	S53N	支部長	田中 潔	S52N
理事	小林 正司	S43N	習田 誠志	S55N	
	宗接万太郎	S48N	藤本 昌之	S42N	
	菅沼 延之	S48N	岡崎 和清	S48N	
	加塚 伸吾	S52E	村木 国夫	S48N	
山口 淳	S61N	田中 潔	S52N		
四日市支部 5(5)			理事	村田 佳久	S55N
支部長	西井 育央	S61E		国安 政幸	S58N
理事	室 博也	S55N		清家 将之	S60N
	待井 健司	H2N		福田 美和	H7N
	伊藤 英樹	H4E		西日本支部 2(2)	
	西村 崇	H6I	支部長	中野 正義	S41N
			理事	神子 功	S48E

同窓会の活動

平成30年商船学科卒業式挙行

9月24日の秋の佳き日、母校商船学航海コース15名、機関コース23名、専攻科海事システム学科4名が卒業し鳥羽を旅立ちました。進路は外航船社4名、内航船社15名、フェリー、探査船7名で26名が海上職に就き、陸上企業10名、その他2名、進学4名でほぼ進路が決まりました。

林校長、菅沼同窓会長、酒匂全船協会長の励ましの祝辞を胸に刻み、荒波に乗り出す後輩たちの活躍を同窓会一同、心より願っています。

又、卒業謝恩会式場では今年から同窓会予算で計上された『資格取得奨励賞』の授与式が行われ、1級海技士筆記合格者N6名、E5名に菅沼会長より金一封が授与されました。春の工業系の新卒者にも資格取得奨励賞は準備しているので春の新卒者も頑張ってください。

賞状 奨励賞

あなたは在学中中学業に専念され、海技試験一級の試験に合格されました。このことは他の模範となるものであります。平素のあなたの努力を称え、資格取得奨励制度に依ってここに金一封を贈呈しこれを表彰します。



本社/広島県市
事業所/仙台・埼玉・名古屋
大阪・神戸・岡山
米子・高松・広島
下関・福岡、他77ヶ所

本社 〒737-0051
広島県市中央1丁目6-9
TEL/0823-24-2727
http://www.muroo.co.jp

山下 文徳(S41E・83期)

同窓会会報発行（平成30年10月5日）



今年の同窓会会報発送作業を10月5日、伊勢志摩支部有志で和気藹々と楽しみながら行いました。

平成31年3月15日(金) 母校入学試験

入学志願者増加に同窓会が寄与

母校入学試験において、近年県外の受験希望者が減少しているとお声を聞き、同窓会としての支援を考えました。そこで急遽、支部長会を名古屋にて開催しました。出席者全員の賛同を得て、同窓会の諸先輩方の卒業した中学、自宅近辺の縁のある中学校に母校の学校案内を携えて、訪問していただくこととなりました。

母校職員の方に中学校とのアポイントメントを取っていただき、同窓生がご挨拶に伺うといった連携プレーで多くの中学校を訪問して頂きました。

その結果、今年は例年に増して県外の受験者が大巾に増えたとの熱い感謝の御礼状を林校長よりいただきました。同窓会有志の熱い母校愛に感謝いたします。（事務局）

令和元年同窓会総会鳥羽で開催

今年の同窓会総会は6月2日90名弱の出席の元母校視聴覚教室で開催し、その後の懇親会は鳥羽国際ホテルで開宴しました。

令和初の理事会、総会は2年に一度の役員改選期で、会長立候補者は現菅沼会長一人でした。総会前の理事会で菅沼会長の留任で承認可決し、総会にて報告承認致しました。そして副会長では、藤本昌之氏（S42N）、室博也氏（S55N）が退任され、後任に田中潔氏（S52N）が任命され承認されました。また加塚伸吾氏（S52E）、江崎修央氏（H4M）は前期に続いて副会長に任命され承認を受けました。その他会計監査各支部長の異動等については秋の会報で報告いたします。昨年8月1日には母校に荣誉ある行啓を皇太子殿下（現今上陛下）に賜りました。お迎えするにあたり校舎の化粧直しに母校に108万の寄付を実施した為、同窓会の今年の決算は73万弱資産が減少致しましたが年会費収入は2年連続で微増しました。しかし会費納入者の78%は昭和世代の

卒業生です。

まだ子育て、会社業務に多忙の方も多いと思いますが、母校の為、同窓会の存続の為、会費の納入、ご寄付にご協力を宜しくお願い申し上げます。

総会に於ける母校林校長のご挨拶のなかでは、母校入学志願者を増やす為、昨年夏に同窓会の県外支部役員の皆様に集まっていたき、ご近所の中学、縁のある中学に学校のパンフレットの配布と広報活動をお願いした結果、志願者が増え、倍率が上がったと感謝の言葉を頂き、今年も協力を依頼されました。

練習船鳥羽丸も代替船の新造計画も順調に進展しつつあるとの報告がありました。又、来賓の東京に有る攻玉社学園木村同窓会長の挨拶の中では近藤真琴先生を創始者とする両校は、兄弟校の契を昭和40年に結び現代に至っております。近年は攻玉社高校の1年生が毎年秋の修学旅行で母校を訪問し、近藤翁慰霊碑に参拝しております。今後も両校の交流を益々深めたいとお話がありました。



慰霊祭の様子



菅沼会長の今年の活動方針

- ①財政安定化と支部活性化への取り組み
- ②母校教職員との交流の深化
- ③寮生会、学生会との連絡懇談会
- ④母校受験者を増やすため、学校と連絡を密にし同窓会組織で応援する
- ⑤攻玉社同窓会との交流を今まで以上に密にする
- ⑥全日本船舶職員協会と関係強化を図る
- ⑦同窓会歌を検討する

以上の方針が菅沼会長より発表されました。

皆様のご協力よろしくお願ひいたします。

昼からの懇親会は鳥羽国際ホテル海城で開催致しました。参加者には91歳を超えた大先輩の裏山氏(S19N)、福村氏(S19/12N)から18歳の学生まで出席をいただき70歳以上の年齢差が母校創立138年の歴史を表しています。

アトラクションでは伊勢志摩支部会員で相談役の古川昭一さんのお孫さんの音楽仲間4人が、バイオリン、チェロ、ピアノ、声楽で母校校歌、練習船の歌やその他の船歌数曲を演奏し最後には、寮の歌の会で鍛えられた有志と彼女たちのコラボは好評で他支部から遠征の願いもあったようです。

宴の最後は次回開催地、東日本支部の福山支部長の万歳三唱で締めくくり、来年の再会を約束し、閉会いたしました。

(事務局長 江崎隆夫)

特集
「我等! 鳥羽商船」 中編

**明日に向かって
一同窓会の母校へのベクトル**

増島 忠弘
昭和54年 航海科卒



一昨年(2017年)の12月、私は母校で70名弱の小中学生を前に「水先案内人の話」と題して約45分間時間をいただき、海の魅力やパイロットの話をした。子供たちに聞かせるスピーチなので、楽しく面白いものにしようかと数か月前より、いろいろ話す題材とか、動画は何を見せようか(幸い私は現役の船乗り時代、ビデオカメラの黎明期の1984年位から船にビデオカメラを持っていろいろと映像を撮っていたので、ソースは沢山ある)とか準備していた。三重県南部の同窓生を中心にして結成されたNPO法人「故郷の海を愛する会」(「愛する会」)の「もうすぐクリスマス、遊んで学ぼう、商船学校の歴史と船と海の話」というイベントの一環として話をし

たのだ。子供たちを飽きさせないように、コンテナ船で世界一周した時のビデオ映像(BGMが入ってプロによる編集済の作品)を交えて面白おかしく話をしたのが、一応子供たちにも受けたようだ。

このイベントのアンケート結果が「愛する会」の事業報告冊子に載っていたが、私を含め3名の講師がお話をしたのだが、一番好評だったようである。しかし私の講話模様を撮ったビデオ映像では、海や船の話しの場面では、あっちを向いていた子供たちもいたので、どうだったか心配もしたが、一応この評価はそのまま受け取りたいと思う。子供はお世辞や利害関係で、ものは言わないので、ダイレクトに話の結果がわかるのがある意味怖いですが、とりあえず嬉しい結果だった。この私のトークの中でドバイでの下船時、大ショッピングモールに行った感想で、金のブレスレットや指輪を扱う宝石店が多かったことを話した所、子供たちは目を輝かせていたことを私は覚えている。質疑応答の時間も作って、今の子供たちがどんなことを考え、何に興味を持ちながらこのイベントに参加しているのかこちらから聞いてみた。「船乗りになりたい人?」……3・4名が手を上げたのみ。子供たちからの質問「船乗りさんのお給料は?休みは?」……「給料は一般陸上企業の1.5倍くらいで、外航船員は今、8カ月乗船し4ヶ月休みなんだよ」と説明したら、ここでも子供たちの目は輝いた。

昨今の鳥羽商船の応募状況を見ると、商船学科は定員割れかそれに近い状況だそう。一方電子機械工学科や制御情報工学科は定員を大幅に上回り、活況を呈している。私たち船乗りにとっては悲しい現実だが致し方ない。工学系学科は、全国高専のロボットコンテストで毎回上位に入っていたり、マイクロソフトのプログラミング世界大会に、日本から東京大学と我が校が選ばれたり活躍していると聞く。今は昔、私たちが卒業する頃海運不況で大手船会社への就職は全国5商船で航海科・機関科共数名



という難関にあって、常に我が校がその中に入っていた。その時々で自慢できることが我が校にはあったと思う。そのベースには、学生を持ち上げ、鼓舞させる素晴らしい教授陣の存在を忘れてはならないと思う。優秀な先生方がいたからこそ、私たちが頑張れ、結果が残せたのだと思う。それは今の工学系学生の活躍しかりだ。そこで先生方をお願いしたい。どうか優秀な先生方を引っ張って来て下さい。学生は先生によって120%の実力を出しうる存在に替わり得るのです。そして学生が様々な場で成果を出していけば、その結果を見て、また優秀な学生が入ってくる。優秀な学生が入ってくれば、さらに先生も気概を感じ学生を導くという『善のサーキュレーション』が生まれてくるのです。

「愛する会」のような我が校の紹介や海事思想の普及をする活動も大切です。私は東京で生まれ育ってずっと船に乗っていた関係で、同窓会活動に余りかかわったことはありませんでしたが、伊勢三河湾水先人となって名古屋に住むようになって初めて「愛する会」の活動にかかわれ、我が校の現状を目の当たりにし、このような組織の重要性を痛感している次第です。同窓生みなで、先生方を応援し、ぜひ優秀な卒業生を今後も輩出していけるようなベクトルを持ち続けることを願ってやみません。

鳥羽商船高専の卒業生・教員として

出江 幸重

平成3年 電子機械工学科卒

私が鳥羽商船高専を初めて知ったのは昭和60年、中学3年生のときでした。当時、高専にあこがれを抱き、工業高専の電気工学科を自分の進路の候補の一つと考えていた私に担任の先生が鳥羽商船高専のことを教えてくれました。先生の情報は不確かな部分もあり、「鳥羽商船に電子工学科（本当は電子機械工学科であることを後で知りました）が新しくできて、工業高専と同じ勉強をして、その後の進路も同様だ。しかも1期生だ。（実際は2期生でした）」と教えていただきました。中学の担任と当時の鳥羽商船の英語の先生が偶然知り合いであり、学校を見学させていただきました。見学の帰りに担任の先生に



鰻をご馳走になったことは鮮明に記憶していますが、見学の内容は正直ほとんど記憶にありません。鰻のご馳走が関係したかどうかは不明ですが、私は鳥羽商船の電子機械工学科を受験し、入学しました。昭和61年の春のことです。寮での出来事はあまり詳しくは書けませんが、それまでの人生の中では経験したことのないことばかりでした。寮生活は1年で辞めてしまいましたが、その後の私の人間形成に（良くも悪くも）大きく影響したと思っています。寮生活で学んだことは多く、後になって考えてみると良い経験だったと思いますが、当時苦労したのは確かです。両親・家族のありがたさを痛感したのも寮生活のおかげです。

鳥羽商船を卒業後は、豊橋技術科学大学・大学院を修了し、平成7年4月から制御情報工学科の教員として勤務することになりました。24歳と10か月でした。私は小学生の頃から学校の先生になりたいという希望を持っており、小学校卒業時の文集にもしっかりとそのことが書かれています。中学生になり、将来の進路を考えるうちに、もともと機械の仕組みに興味があり、機械いじりが好きで、かなりの時間を費やして実際に機械を分解したり加工したりしていました。そのような時期に工業高専を知ったことで私は高専に興味を持つようになりました。大学院に行く頃には将来高専の教員になりたいという希望が芽生えていました。当然第一候補は鳥羽商船高専でした。大学・大学院での専攻は情報工学であり、制御の研究を行っていたことから、制御情報工学科の教員として採用されました。

教員になってからは学生時代に知らなかった教員の苦労がいろいろとわかりました。学生のことを第一に考えて行動することは当然だと思っていましたが、なかなかそうはいかないこともありました。若い頃は目の前の仕事に取り組みばよかったです。年数を重ねるとそうはいきません。大きな視野で全体を見ながら仕事を進める必要があります。学生に対しても同様です。



名古屋メッキ工業株式会社
NAGOYA PLATING CO.,LTD.

本社
熱田工場・事務所
守破離工場
海のロマンス工場
櫻華工場

本社
〒467-0863 愛知県名古屋市瑞穂区牛巻町4番6号
TEL/052-882-3954
<https://www.nagoya-mekki.com>

代表取締役
菅沼 延之(S48N・88期)

私は鳥羽商船高専の教員ですが卒業生でもあります。教員と学生という関係ではありますが、先輩と後輩でもあります。鳥羽商船は職場でもありますが、多感な青春時代を過ごした母校でもあります。多くのことで他の教職員の方々とは異なる思いがあると思っています。今の自分があるのは、鳥羽商船の学生としての5年間と教員としての24年間があったからこそです。母校のために、後輩のために、できる範囲ではありますが今後も努めていきたいと思っています。

今年度からは、情報機械システム工学科が誕生しました。出身学科である電子機械工学科やこれまで所属していた制御情報工学科がなくなることにより一抹の寂しさを感じ得ずにはいられませんでした。今後の鳥羽商船高専をより良くしていくためには、時代に合わせた改革は必要です。

今後の鳥羽商船高専のさらなる発展のためには、教職員や学生はもちろんですが、卒業生のみならずのご助言、ご協力がなくてはなりません。今後も温かい目で母校を見守っていただければありがたいと思っています。

先輩へのメッセージ

村山 庸平

平成16年 制御情報工学科卒

私がヤフー株式会社に入社して15年が経ちました。いざ文字にしてみると長いもんだなと感じますが、中にいる分にはあっという間だった気がします。2004年制御情報工学科を卒業後、当時六本木ヒルズにオフィスがあったヤフー株式会社に入社しました。その頃はブロードバンドという言葉が出始めたころだったと思います。

入社してからはYahoo!メールの部署に配属され、ツールの改修、サーバー運用、開発・保守などエンジニアの基礎をたたき込まれました。その後、ガラケー向けのYahoo!メールのWebサービスの開発がメインの担当になり、それから担当サービスは変わりつつも、ずっと携帯電話・スマートフォン向けの開発業務を担当しています。

●最近の業務内容について

現在の私の業務としては、Yahoo! MAP Androidアプリの開発責任者をしています。Android 1.6ぐ

らいの頃より開発を始め、約7年Android中心の業務をしています。

責任者と言いましても、完全なマネージャーという訳ではなく、時にはコーディングを行ったり、企画担当者と企画内容について話し合ったりと業務内容は多岐にわたっています。普段自分がどんなことを考えながら仕事をしているか、簡単にご紹介したいと思います。

2019年現在の日本において、スマートフォンといえばApple社のiOSとGoogle社が開発しているAndroid OSを搭載した製品がほとんどだと思います。スマートフォンもパソコンと同様のコンピュータであり、オペレーティングシステム (OS) という基礎的なソフトウェアとその上で動くアプリケーションで成り立っています。Apple社のiPhoneはOSも端末本体も自社で開発しているのに対して、Android OSはGoogle社をはじめとするAOSPというグループが、端末本体は別の企業が開発するという違いがあります。Androidアプリを担当するにあたって大変なことの一つに、多種多様な端末があることです。あるメーカーのものは4インチ、別のメーカーのものは6インチとたくさんの画面サイズがあるため、アプリのデザインは相対的な配置したり、ここからここまでは端末幅に合わせて引き延ばすなどの工夫が必要になります。

また、発売時期によって搭載されているAndroid OSのバージョンが違い、出来ることが違ってきます。新しい機能を開発するに当たり、企画担当者やデザイナーと出来ること出来ないことはよく話し合っています。Androidには大変なことがあるものの、たくさんの端末の中から自分の好みにあったものを選ぶ自由な文化をととても気に入っています。

Androidを使っているユーザーの自由をなるべく妨げないように、日々アプリの改善に取り組んでいます。



写真は鳥羽商船で学生向けに講演したときの1枚

●先輩へのメッセージ

ITの世界は日進月歩であり、新しい技術やサービスが日々生まれている状況です。新しいことが日々

生まれて大変そう
と思うかもしれませんが、自分としては学生の時の方が大変だったかなと思います。後輩の皆さんも経験されているとおもいますが、1学年上がるごとに学ぶ教科の名前はガラッとかわります。しかし名前が変わったからといって0から学び直しというわけではなく、前年の学習を基礎にしていることが多いと思います。



1年次は中学校と比べて大幅に科目数が増えて、勉強に戸惑うことも多かったと思いますが、年次が上がるにつれて大変なりに勉強法がわかってきてはいるのでしょうか？

IT業界も同じで、新しい技術が出たからといって全く理解できないものではなく、既存技術の応用だったり組み合わせだったりすることはよくあることです。なにより自分は新しいことが大好きです。新しい技術やサービスが出てきたときはわくわくしますし、どうやって使うのか、どのように活用されるのかとても興味があります。新しいものを楽しんできたからこそ、15年もエンジニアを続けてこれたのかなと思います。後輩のみなさんと「わくわく」が共有できる日が来ることを楽しみにしております。

海学祭と学生会役員について

清水 維

制御情報工学科 現5年生

私は現在、制御情報工学科の5年生で、学生会長として学校のために尽力しております。



学生会長は全校学生の代表であり、学生会役員のトップですので、その重圧は強く感じます。

学生会役員とは学生会（全学生）の中から有志が集まった者を指し、現在1年生から5年生まで44名の役員がいます。学生会役員の仕事は各クラブへの

部費配分や学生会則の改正などの事務的作業が主ですが、一番大きな仕事は本校の学園祭である「海学祭」の企画・運営です。

海学祭は学生主体の学園祭ですが、保護者面談や一般来客への本校のPR活動なども担っており大変重要なイベントです。海学祭の準備は新学期が始まる4月からスタートし、10月まで約半年かけて行います。半年と言っても時間に余裕はありません。

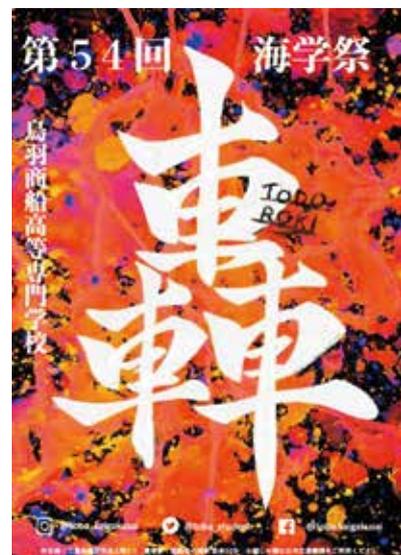
4月に新入生の役員が入ると、すぐさま各運営班に割り振りを行います。運営班は以下の10の班があります。イベント班、ライブ班、模擬店班、電気班、広報班、スポンサー班、展示班、鳥羽丸班、駐車場班、PAPV班。これらの班が協力して海学祭を運営しているのです。学生会役員は44名ですが、海学祭は大きな行事ですので十分な人数とは言えず、ひとりひとりの負担は大きいです。

放課後だけでは仕事が終わらず、家に持ち帰り深夜や土日に仕事をする役員もいます。この点は学生会活動における改善すべき課題でもありますが、皆が一所懸命に尽力している姿を見ていると「今年も必ず成功するだろう」と感心します。

また、海学祭を通じ役員は確実に成長しますし、海学祭が終わったときの充実感や達成感は役員しか味わうことのできないものです。他の役員にも自分の仕事に自信と誇りをもってもらいたいです。

さて、そんな海学祭も今年で54回目です。

先輩方が53年間絶やすことなく続けて来てくださった海学祭の名に恥じぬよう努力し、成功させます。先輩の皆様、この機会にぜひ母校に足を運び、後輩達の勇姿を眺めるとともに、ご自身の学生時代を思い出してみたいかがでしょうか。



寮生活の思い出

大岡 昇太

商船学科航海コース第5学年 寮生活会長

現在男子寮は1年生45人、2年生39人、3年生39人、4年生33人、5年生33人で女子寮は1年生6人、2年生4人、3年生7人、4年生8人、5年生6人の合計31人が暁寮で暮らしています。やはり商船学科が半分以上を占めています。商船学科は特殊な学科なので各地方様々なところから学生が集まってくるため、飽きることなく楽しく暮らしています。

寮生会には寮長や副寮長の他に、主に毎週行っている定例会の書記をする総務委員、毎日の掃除当番の作成や大掃除の時に仕切ったりする環境整備委員、寮の備品や共用自転車の管理を行っている備品管理委員、新一年生の紹介の新聞や掲示物の作成をしている新聞委員、イベントの立案、運営を行っているイベント委員があります。A棟には1、2年生に寮生活での助言や相談事に乗ったりまた、寮生活をする上でのルールなどを教えたりする世話係と言う役職があります。

寮では様々な行事を行っています。前期では新入寮生を歓迎するとともに新入寮生は上級生とは住む棟が違うためほとんどかわりがなく全く一年生のことがわからない状態になってしまうため様々な行事があります。最初は対面式が行われます。対面式では一年生が全寮生の前で一人ずつ自己紹介をしていきます。これは昔から伝統行事で「わたくしは〇県〇〇中学校出身の！〇〇と申します！平成〇年〇月〇日生まれ御年もって〇〇歳！よろしくお願ひします！」とみんなの前で全力で自己紹介をした後に一発芸など一つ芸をして盛り上げています。だんだん全員のテンションが上がってくると上級生も前に行き一発芸などしたりしてとても盛り上がります。次はドッチボール大会です。すべての学年が入ったチーム同士で行われます。私たちが一年生の時は、「上級生に思いっきり当てても許されるぞ！」や反対に「上級生を当てると後が怖いぞ」など様々な噂が一年生の中で飛び交い度胸試しの場になり楽しくしていたのを覚えています。また、景品もあり一位は寮生にはとても嬉しいカップラーメンなどの夜食などが出るため全員一位を目指して頑張っていました。

次は一年生にとって最初の大イベントと言っても過言ではない一年生部屋替えが行われます。この部屋替えの時の同室は色々な人と仲良くなってもらいたいため世話係がランダムで決めています。部屋替えのやり方は貴重品以外のものを一回すべて廊下に出し世話係の指示のもとバケツリレー方式で荷物を運んでいきます。時にはたまたまた来た上級生と一緒に参加したりその時にふざけて世話係に怒られて周りの一年生が笑ったりとよい雰囲気部屋替えが行われています。

次は一年生歓迎バーベキュー大会です。毎年なぜか一年生の歓迎バーベキューのはずが後片付けは一年生が



1年生歓迎BBQ大会

やることになっています。しかしこの片付けによって普段話したことのない子とも仲良くなったりするため私はこれもまた良い行事の一つではないかと思いました。これが前期に行われた行事です。後期ではクリスマスパーティーや五年生を送る会などが予定されており、クリスマスパーティーではビンゴ大会などが開催され毎年景品が豪華なのでみんな楽しみにしています。

そして寮生と言ったら入学式、卒業式、海学祭で披露される寮生校歌だと思います。私が入学式の際初めて見たとき鳥肌が立ち「これはやばい」と思う反面「すごい！自分もやってみたい。」と思いました。この校歌の練習は前期中間試験の終わりから約三日間しっかりと練習します。今年は例年に比べてとてもいい出来なので披露できる日が楽しみです。

私は五年間住んできた寮の寮長を務めさせていただきとても誇りに思えます。これからも暁寮のことをよろしくお願ひいたします。

同窓会の
ポロシャツを
販売しています

1着 2,500円
(送料別約510円)

サイズは、L、LL、3L。
色は、白とターコイズブルーの2種類。購入希望は、同窓会事務局にfax又はe-mailで申し込みしてください。

◆活動11年：

鳥羽商船同窓会伊勢志摩支部の有志が立ち上げた故郷の海を愛する会は活動11年目となりました。

小中学生が体験を通して船や海を知り、親しみ、将来の夢を育むようになって欲しいと活動を続けています。

活動に参加する小中学生の募集範囲は三重県の津から南の6市8町ですが、それ以外、県外からの応募もあり、活動が少しは世間に知られてきたと感じています。

子供達に一番人気のイベントは「造船所の見学と練習船の体験航海」ですね。昨年は多くの応募があったので、今年はより多くの子供達が参加できるように2日に分けて実施しました。それでも津や松阪から参加できなかった子供が多く居たので、来年はもっと多くの子供が参加できるように考えます。嬉しいことです。

活動資金について、下の表を参照ください。

2018年度 事業収入	金額	%	
会費	88,000	3%	
寄付	534,670	21%	
鳥羽商船同窓会	160,000	6%	
鳥羽商船同窓会伊勢志摩支部	40,000	2%	
参加費	342,000	13%	46%
日本中小型造船工業会	172,800	7%	
日本船主協会	100,000	4%	
日本海事センター	500,000	20%	
全日本海員組合	500,000	20%	
山縣記念財団	100,000	4%	54%
合計	2,537,470		

おかげさまで海事関係のいくつかの団体から多くの助成を頂いていますが、2019年度は5年間助成して頂いた日本海事センターからの助成が無くなりました。なかなかどの団体でも継続して助成を頂くのは難しいようです。

会としては継続して安定して事業を行う為には自己資金（会費・一般からの寄付など）をもっと集めるべきと考え、カンパン決済サービスを利用して一般からの会費・寄付を募ることを始めました。同窓生からの寄付はもちろんお願いします、知り合い・関係団体に紹介して下さい。

[URL https://kessai.canpan.info/org/furusatoumi/](https://kessai.canpan.info/org/furusatoumi/)

会の活動の様子は、同窓会HP、日本財団の提供するCANPANブログで見頂けます。

[URL http://blog.canpan.info/umiwoaisurukai/](http://blog.canpan.info/umiwoaisurukai/)



◆活動の報告など：

昨年の同窓会報に掲載の活動以降について紹介します。

2018年10月13日

潮騒の神島の自然観察と伊良湖水道

参加者、小中学生66名、は鳥羽マリンターミナルに集合し、鳥羽市の市営高速艇で神島に向かいました。

神島では、八代神社の宝物殿でたくさんの神鏡、紡績具や兜につける鍬形などを見学し、八代神社にお参りし、渡りをする蝶アサギマダラを観察し、神島灯台を鳥羽海上保安部の方々の説明を受けながら見学し、伊良湖水道を通航する大きな船を眺めました。今年の夏休みの活動で行った伊勢湾海上交通センターや恋路ヶ浜も見ることが出来ました。

お昼は集会所でタコ飯弁当でした。元漁協組合長の神島の話も聞きました。

午後は神島を左回りでカルスト地形の近くまで歩き、神島の自然を楽しみました。



2018年10月21日

鳥羽商船高専の海学祭で活動紹介



海学祭で本会の活動紹介や鳥羽商船学校の校祖である「近藤真琴」の写真パネル展示を行いました。

2018年12月8日

商船学校の歴史と船と海の話

鳥羽商船高専で小中学生49名の参加を得て実施しました。講演として鳥羽海上保安部の女性保安官から保安部の仕事と災害時の注意点について、鳥羽商



船高専の中井さんから暮らしに役立つシステムの話、日本郵船で初めて女性船長となった小西さんから外航船の話の話を聞きました。その後、4班に分かれチャレンジ体験をしました。

機関室の見学、ロープの結び方の体験等を楽しんでもらいました。



2019年6月11日

「海から始まる物語 IN 2019」

イベント①～③募集

2019年度は4回のイベントを計画しました。その内、夏休み中に実施する3つのイベントについての募集を6月11日に開始しました。



造船所見学と練習船の体験乗船のイベントが人気なので2回実施で計画しました。

募集受付開始は11日の00:00でしたが、多くの応募があり、一つのイベントは02:00には定員数に達しました。イベント①②については、早々の募集締切となりました。イベント③については、津集合組は定員数を超えましたが、鳥羽集合組は定員に達しませんでした。

津や松阪周辺から多くの応募がありますが、その辺りの小中学生に活動が知られてきたようです。

2019年8月1日

JMU津造船所見学と

鳥羽商船高専の練習船で体験航海その②

参加者、小中学生50名、はJMU津造船所に集合し、造船所見学と練習船体験航海を行いました。

とても暑い一日でしたが、海は凪いでおり、体験日和となりました。

造船所では大きな鉱石専用船を建造中でした。子供達はその大きさに圧倒されたようでした。

練習船の体験航海では操舵室の見学や操舵体験、機関室の見学、ロープの結び方の体験等を楽しんでもらいました。スナメリも見ることが出来ました。



2019年7月25日

JMU津造船所見学と

鳥羽商船高専の練習船で体験航海

参加者、小中学生98名、は2組に分かれ、JMU津造船所と鳥羽商船高専に集合し、造船所見学と練習船体験航海を行いました。

梅雨が明け、暑い一日でしたが、海は凪いでおり、体験日和となりました。

造船所では大きなタンカーや鉱石専用船を建造中でした。子供達はその大きさに圧倒されたようでした。

練習船の体験航海では操舵室の見学や操舵体験、

2019年8月20日

四日市港見学と火力発電所見学

津と鳥羽で集合し、四日市港の見学と火力発電所の見学を実施する予定です。

(原稿を書いている時は未だ実施していませんでした) 以上

学校だより

平成30年9月～令和元年8月

航海コース5年生の 鳥羽丸実習について

鳥羽丸船長 齊心 俊憲 (H1N)

令和元年6月3日～7日におきまして、航海コース5年生の鳥羽丸実習を実施いたしました。本年度の航海実習は、和歌山県御坊市日高港を經由し、阪神港神戸区中突堤C岸壁に向かいました。



【令和元年度航海コース5年生の航海実習の概要】

2019/06/03	16:55	鳥羽池の浦	出港
2019/06/04	08:50	和歌山県御坊市日高港塩屋第二岸壁	入港
	10:15～11:45	鳥羽丸体験航海（和歌山高専受託研究1件実施） 学生による鳥羽丸一般公開実施（地元幼稚園児及び小学生をご招待） 和歌山工業高専及び御坊市との防災支援のための支援物資陸揚げテストを実施 和歌山工業高専との交流会を実施	
2019/06/05	08:30	和歌山県御坊市日高港塩屋第二岸壁	出港
2019/06/05	14:10	阪神港神戸区中突堤C岸壁	入港 学生による鳥羽丸一般公開実施
2019/06/06	14:00	阪神港神戸区中突堤C岸壁	出港
2019/06/07	08:50	鳥羽池の浦	入港

本年度の航海実習は、和歌山工業高等専門学校の皆様及び鳥羽商船OBの皆様のご支援を頂き、完遂することが出来ました。鳥羽丸を代表いたしまして、感謝申し上げます。今後とも練習船鳥羽丸のご支援よろしくお願い申し上げます。

新学科「情報機械システム工学科」 の新設について

平成31年4月に現行の電子機械工学科・制御情報工学科を統合し「情報機械システム工学科」を設置しましたので解説いたします。新学科を立ち上げる目的や育成する人材像を簡単にまとめます。

- ①地域社会の発展に寄与できるシステム提案・開発が可能な技術者を養成する。
- ②プログラミングを通じて論理的思考能力を育成し、情報工学、機械工学、情報工学の基礎を修得する。
- ③三重県や伊勢志摩地域の産業支援、地域連携を重視し、PBL (Project Based Learning) を通じたグループワークにより地元の産業振興に貢献できる人材育成を進める。
- ④卒業後は地元に関連する産業を支える人材となる。



これらを実現するために、オーダーメイド型のカリキュラムを提供します。最大の特徴は学生自らの個性・特性に合わせた専門性ユニット・志向性ユニットの選択です。

専門性ユニット

技術者としての専門分野の学習

- データアナライズ** ▶▶ ビックデータ解析、人工知能による認識処理などを実装できる技術者を育成します。
- モバイルアプリケーション** ▶▶ スマートフォンやタブレット端末による各種アプリケーションを開発できる技術者を育成します。
- スマートセンシング** ▶▶ 身の回りにある情報を定量的に計測し、分析・可視化を行う技術者を育成します。
- パワーエレクトロニクス** ▶▶ 住宅や事務所向けの電力供給・管理システムの整備、保守を担う技術者を育成します。
- エアロスペース** ▶▶ 航空宇宙産業の製造現場で活躍するため、生産現場の管理運営能力を持つ技術者を育成します。
- ロボティクス** ▶▶ 生産を担うロボットの開発、設計、製作、制御、整備ができる技術者を育成します。

志向性ユニット

職種選択のための学習

- 開発・設計** ▶▶ 開発・設計業務に携わるために必要な高度な理数系の知識を修得します。
- 生産技術** ▶▶ 生産現場の取りまとめとして幅広く技術を理解し、各部門の要望をまとめる調整能力を培います。
- 顧客対応** ▶▶ 電気機器やビルシステムの導入・保守運用をするための顧客との交渉力を養います。
- ビジネス基礎** ▶▶ ビジネス的な視点を持つ技術者として活躍するために、経営・管理などを学びます。
- 国際性** ▶▶ グローバルな視野を持ち、英語を中心とした語学力の向上を進めます。

専門性ユニットとしては、将来就く仕事における技術的分野であり、開設当初は6つを用意しますが、時代や地域の要請に合わせて変更していきます。

志向性ユニットは、将来就く職業における職種の基盤を身に付けるものです。技術者というと、開発・設計職が多いと思われがちですが、生産現場の管理や顧客対応など様々な職種があります。

入学後は、スタートアップとして工学基礎やプログラミングを学び、高専で学ぶということ、将来像を理解してもらいます。2・3年生では、新学科の基盤となる情報工学、機械工学、電気電子工学の基礎を学び、分野横断的な知識を備えた技術者となる基盤を培います。4・5年生では、先ほども説明した専門性ユニット・志向性ユニットの選択により、自ら進むべき道を明確にしていきます。

新学科では1年次から地域連携型のPBLを実施し、5年生から1年生までの学年縦断型のチーム編成により、地域課題の解決に取り組みます。

これまで、電子機械工学科・制御情報工学科は、比率は違えども電気電子、機械、情報の学習に取り組んできました。入学を考える中学生や親御さん、

先生たちからは、学科の違いが分かりづらい、どちらの学科に向いているの分からない、と言った意見をいただけてきました。また、AIやIoTを中心とする第4次産業革命が進む中、両学科の学生が共通的に学ぶべきことが増大しています。これらを総合的に判断すると、今回の新学科立ち上げは必須の流れでした。

平成30年までに電子機械工学科・制御情報工学科に入学した学生は既存学科のまま、カリキュラムの範囲内で新学科に近い内容を学習します。

平成31年4月に、商船学科42名、情報機械システム工学科80名の計122名を本科1年生に迎え入れました。工業系学科はここ2、3年、順調に志願者の倍率を伸ばしており、学力においても復調傾向にあります。伊勢志摩を始めとした各地において本校が認められてきている証であり、今後も発展し続けていく所存です。



支部だより

東日本支部 支部長 S41N 福山 道夫 (報告は、6月の総会時のものです。)

薫風がさわやかに吹く5月がやってまいりました。皆様におかれましてはご健勝のこととお喜び申しあげます。東日本支部の平成30年度活動状況、並びに31年度の活動予定をお知らせいたします。

平成30年度活動状況

- 2月2日 支部役員会開催
- 4月12日 支部役員会開催
- 5月6日 カッター練習日
- 5月15日 第48回日本戦没殉職船員追悼式出席
(横須賀) 増田、水野出席
- 5月19日 攻玉社同窓会出席
会長、前会長、水野出席
- 5月20日 第35回横浜港カッターレース2艇参加
一般及びシニアの部
- 6月3日 本部総会出席
- 10月25日 支部総会懇親会
場所：ホテルグランドアーク半蔵門
27名出席

平成31年

- 3月13日 支部理事会開催
- 5月9日 支部理事会開催
- 5月11日 攻玉社同窓会総会
- 5月15日 日本戦没殉職船員追悼式(横須賀)
- 5月19日 横浜港カッターレース練習日
- 5月26日 横浜港カッターレース開催
2艇参加予定
- 6月2日 本部総会予定

東日本支部総会懇親会予定

日時：10月24日 場所：グランドアーク半蔵門

前東日本支部長 水野正治君はかねてより入院加療中でしたが、3月21日逝去されました。 合掌

中部支部 支部長 S53N 山川 博之

平成30年度中部支部活動報告

中部支部は名古屋港に入港する本校学校練習船や本校学生が乗船している海技教育機構の練習船への

飲み物等の差し入れを行いました。

特に鳥羽丸入港時には現状の学校環境などの情報交換もあり、支部長以下関係者で訪船しました。

平成30年

- 5月9日 青雲丸 飲料差し入れ
- 6月26日 鳥羽丸 飲料差し入れ 訪船
- 8月31日 青雲丸 飲料差し入れ
- 11月9日 鳥羽丸 飲料差し入れ 訪船
- 11月23日 日本丸 飲料差し入れ

平成31年

- 3月9日 銀河丸 飲料差し入れ

5月14日には名鳥会定時総会を開催し、40名の会員出席の元、菅沼本部長より学校の現状のお話をいただき、同窓会の重要性を改めて確認しました。その後の懇親会で旧交を温め、最後に校歌を歌い解散としました。其の後気の合った者同士それぞれ2次会へと散ってゆきました。

30年度も恒例のゴルフコンペを2回開催し、S61N山口さん、S58N西尾さんがそれぞれ優勝でした。

2月8日には全船協、海洋会、若葉会の3団体が共催するめいよう会に全船協として5名の同窓生が参加し、名古屋港で活躍する海に係わるもの同士として大いに懇親を深めました。

3月1日には中部支部役員会を開催、今後の中部支部人事や活動予定を協議しました。

今後の中部支部の活動として、故郷の海を愛する会の名古屋港での開催や、四日市カッターレース、練習船の訪船、懇親ゴルフコンペ等、支部会員とともに同窓会活動を盛り立ててゆきたいと思っております。

四日市支部 支部長 S61E 西井 育央 (報告は、6月の総会時の報告を含む。)

平成30年

- 6月30日 四日市支部総会
市内割烹料理店「たまゆら」(27名出席)
- 8月4日 鳥羽丸訪船等(「四日市港まつり」参加)
差し入れ及び「第31回四日港カッターレース大会」への学生参加の応援

平成31年

- 1月18日 四日市支部役員会
市内割烹料理店「栄太郎」(11名出席)

四日市支部活動報告(7月30日)

同窓会会員のみなさまにおかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

日頃は四日市支部の同窓会活動に大変お力添えを賜り有難うございます。

支部を代表いたしまして厚く御礼申し上げます。

令和元年7月6日(土)に、四日市市内の割烹料理店「栄太郎」において支部総会・懇親会を開催しました。

総会は、相良球一様(H6N卒)の司会・議事進行で、役員の変更、平成30年度事業・決算報告、令和元年度の事業計画(案)、収支予算(案)について協議し、原案が承認されました。

その後の懇親会では、待井健司様(H2N卒)の乾杯のご発声で始まり、参加者による当時の思い出話や近況報告等に花が咲き、終始アットホームな雰囲気では進行しました。

楽しい時間はあっという間に過ぎてしまい、閉会予定時間よりも遅れてしまいましたが、室博也様(S55N卒)による四日市支部の発展の祈念と来年度の再開を約して一本締めで終了となりました。

◎第57回鳥羽商船同窓会四日市支部総会出席者

木崎 喜富 (S41E)	久田 隆司 (S52E)
室 博也 (S55N)	谷水 一隆 (S56N)
田中 博繁 (S56N)	笠松 伴 (S60N)
鈴木 順一 (S61N)	西井 育央 (S61E)
待井 健司 (H2N)	伊藤 英樹 (H4E)
相良 球一 (H6N)	西村 崇 (H6I)
岡野 清人 (H9N)	岡山 雄一 (H11E)
犬飼 和孝 (H13N)	酒徳 洋輔 (H22E)
正村 和也 (H23N)	計 17人(敬称略)

- 伊勢志摩支部同窓会員のレクレーションとして、神島ハイキングの参加を呼びかけたが、「故郷の海を愛する会」のボランティア協力をしている会員以外の参加者は皆無であった。
- 海学祭模擬店出店協力・必要経費を差し引いた剰余金は同窓会に寄付。
- 海学祭運営委員会に寄付¥50000。
- 伊勢志摩支部懇親会開催(2/18)

今年度の活動計画

- 同窓会定期総会開催
定期総会後の懇親会に伊勢志摩支部から特に若手に多数参加して頂くため、一人につき参加費の半額¥4000を参加申し込み先着50名に補助する。
- 卒業式出席 卒業生同窓会会費納入促進プレゼンを行う。(2回)
- NPO法人故郷の海を愛する会への協力と助成金¥20000と、年度末に同会が赤字となった場合多少の追加助成に応じる。
- 校祖近藤真琴翁の業績を地域の人に知ってもらう活動の一環として。目的を同じとする団体に協力し、積極的に進めていく。「日和山にアサギマダラを呼ぶ」計画の具体化、アサギマダラを呼ぶ草花フジバカマの育成中・挿し木・株分け
- 同期会開催奨励金制度は継続する。
年間5組総額¥10万の予定
- 海学祭への寄付と模擬店出店協力
- その他

伊勢志摩支部 支部長 S43E 三井 健次

平成30年度伊勢志摩支部活動の報告

(報告は、6月の総会時のものです。)

- 定期総会出席(6月3日・大阪)
- 卒業式出席 卒業生同窓会会費納入促進プレゼン(2回)
- NPO法人故郷の海を愛する会への協力と助成(¥40000)
- 校祖近藤真琴翁の業績を地域の人に知ってもらう活動。一昨年同窓生が脚本を書き、在校生が演じた、近藤真琴物語「攻玉伝!」の感動の一場面でもある。「日和山にアサギマダラを呼ぶ」計画の具体化として、フジバカマの苗の育成。
- 同期会開催奨励金制度(¥20000支給)の利用は2件であった。

関西支部 前支部長 S52N 田中 潔

本年度より、関西支部長を退任して本部副会長をさせていただくようになりました、田中潔です。

そもそも関西支部長をさせていただいた経緯についてですが、卒業後に同期の岡室が事務局をやっていた関係で彼に誘われ当時の大阪支部錦浦会に参加させていただいたのが同窓会と最初のつながりでした、その後、会を重ねるにつれ諸先輩方のご尽力で現在の神戸/大阪支部を合わせ関西支部となったわけですが、互いに船に乗れずにサラリーマンとして過ごしておりましたので定年後は鳥羽か二見にでも住んで同窓会の事務のお手伝いでもさせていただき、余生を過ごすのも良いかなと話しておりました。本来なら、岡室が関西支部長をさせていただくと思っておりましたが、10年ほど前に闘病の末、逝去い

たしました。彼の同窓会や学校に対する思いを引き継ぐ形で私が微力ながら同窓会の役員をさせていただくようになった次第です。後任の関西支部長にはS55Nの習田誠至君にお願いしています。また年末には幹事会を開き、神戸地区で支部総会を開く予定です。

先般の本部総会に出席させていただいた時の、校歌や寮歌の歌詞が商船学科以外の学生や卒業生に違和感を与えることなど、私たちが考えなければならぬことを支部の皆様へ報告させていただこうと考えています。なお、関西支部の皆様のご参加をお待ちしております。

以下は、令和元年6月 理事会の関西支部報告です。

会員の皆様、長期連休も終わり、令和の仕事が始まりましたがいかがお過ごしでしょうか。

関西支部幹事会は、去る3月1日に会合を開き、今年度から以下の体制で臨むこととなりました。

本来、役員人事は支部総会で決議されるものですが、昨年の支部総会において「事務局一任」とさせていただいております。

新役員

支部長	習田 誠至 (S55N)
副支部長	村田 佳久 (S55N)
理事	村木 国夫 (S48N)
	田中 潔 (S52N) 本部副会長推薦
	國安 政幸 (S58N)
	清家 将之 (S60N)
	福田 美和 (H7N)

令和元年の支部総会は、12月に開催いたします。皆様の参加をお待ちいたします。

西日本支部 支部長 S41N 中野 正義

至って広域ではありながらも、支部会員数が小規模であるのが当支部の特徴ではありますが、本年度



の活動実績と次年度の計画を、次の通り御報告致します。

平成30年【実績】

- 4月19日～23日 “長崎帆船祭り” 見学 (有志)
- 5月11日 支部理事会 (福岡天神／2名)
- 6月3日 同窓会本部理事会・総会・懇親会
出席 (大阪／支部長・神子理事)
- 7月7日～8日 支部総会・懇親会 (下関／11名)
20名参加の予定ではあったが、
生憎の悪天候・豪雨で交通遮断が
起り参加人員減少。
- 12月15日 支部理事会 (福岡天神／2名)

平成31年

- 1月19日 支部新年会 (福岡天神／有志9名)

計画・令和元年

- 4月18日～22日 “長崎帆船祭り” 見学 (有志)
- 6月2日 同窓会本部理事会・総会・懇親会出席
(鳥羽／支部長・神子理事)
- 令和元年7月6日～7日
支部総会・懇親会 (下関／15名程度)

令和2年1月 支部新年会

☆☆☆ 関門海峡を眺めての露天風呂、汽笛の聞こえる“下関海峡ビュー”での懇親は如何でしょうか？他支部の方々の御参加も歓迎ですので、中野又は神子理事090-2117-5302に御連絡下さい。

H31.4.10 記

西日本支部7月総会の報告

西日本支部長 中野 正義

梅雨に入り、蒸し暑い日が続いておりますが、同窓会の皆さんは如何お過ごしでしょうか？去る7月6日(土)～7日(日)に開催しました、西日本支部総会の報告を致します。昨年の支部総会は、不幸にも西日本豪雨に見舞われ山陽新幹線が不通、参加者8名+家族3名と少数でしたが、今年は梅雨の中休みで、天候に恵まれ参加者15名+家族2名の17名で開催出来ました。昨年参加出来なかった菅沼会長も、出席して頂きました。ただ、翌日先約があり宿泊されないで、例年より少し早く、17時半より総会を開催しました。中野支部長の挨拶と6月2日に開催された本部総会の報告で始まり、菅沼会長の現在の学校の状況や学生の考え方について話され、参加者の皆さんも聞き入っていました。

その後、山下前支部長から本部総会に於ける女性たちグループの校歌等の演奏に深く感銘、西日本支部総会にも誘致できないか協議したが、費用が嵩む

ので今回は断念しました。又、本部から入手のCD（静止画像と各歌の歌詞）があるが、これに音声の入ったDVDにして、販売すればきっと会員の人達に喜ばれると話されました。18時から、福岡元支部長の乾杯の挨拶で懇親会が始まりました。福岡さんは、今年に入り2回の入院手術を余儀なくされましたが、お元気に参加されました。西日本支部の会員数は5年前90名でしたが、今年精査すると75名になっていました。亡くなられた方や転勤された方が多くなったためです。欠席の理由も高齢、体調不調の方が多かったです。しかし、参加者で最年長の三角さん（S32E）は、お元気で翌日、下関のホテルから門司の海峡トンネルまで歩いて行かれました。又、福岡さん、佐野さん、片岡さん、太田さんは、S33Nの同期で、80歳を迎えられました。皆さんお元気で、毎年この総会の後、4人で旅行に出かけられていました。しかし、今年は佐野さんの奥様が入院されているとのことで中止になったそうです。加藤さん（S35E）は、前日にモンゴルから帰国されたばかりでした。少し痩せた感じでしたが、現地の食事が良くなく、帰りに貰った食べ物にあたったとのことでした。今回、初参加の建本さんは、70歳を迎え未知の世界だと話されましたが、その前に80歳の先輩の話聞き、自分も頑張らないと話され、趣味でトライアスロンをしているそうです。同期の江尻君（S48E）は、米作りに励み美味しい米と評判になり、今年は10町の田んぼで米を作るそうです。もう一人の同期の横井君（S48N）は、ウクレレを持ってきてくれ余興に一役買ってくれました。河本さん（S51N）は、定年後も現在の検定協会に在籍され、昨年西日本豪雨の時は多忙だったとのこと、出席者の中で、唯一50歳台の柴田さん（S56E）は、役員昇進の話があり神戸に転勤が条件と言われ丁重に断り門司で定年を迎える覚悟と話されました。21時で懇親会は終わり、恒例の二次会は501号室で始まり、片岡さん、太田さんのピットコインやMMTの話が非常に面白かったと翌日江尻君が話していました。翌朝、朝風呂に入り朝食後、ロビーで雑談、来年の総会は桜の季節の3月28日（土）に決まり、再会を約束し、解散しました。

同窓会員の皆さん、下関の桜が満開のころ、汽笛の聞こえる海峡ビューで開催しますので、どうぞ御参加のほどお願いいたします。

2019年7月10日（記述 神子）

クラス会

80期クラス会開催 平成30年10月10日

いつもオリンピックイヤーそれも開会日に合わせ集まっていたが、今回は2年後のオリンピックまで待てないという事で先の東京オリンピックの開会式の日々に合わせ10月10日に集合しました。

昭和39年秋長期の海上実習を終え母校に帰った仲間と慰労の会を開いた。当時の日本社会は東京オリンピックの競技に熱狂しておりそのテーマ曲の歌詞……「4年たったらまた会いましょう」にちなみ、4年ごとのオリンピック開催年に集まろうとの声が慰労会の席であがり、以降夏季オリンピック開催年毎に集い半世紀を超え継続している。

近年は現役をリタイアした仲間も多く時間にも余裕が出てきたため4年にこだわらず2年ごとの集合となっている。また、会場も磯部、箱根、名古屋等で開催してみたが結局は鳥羽の地に落ち着いた。

今年の会場は前回同様懐かしい鳥羽港を見下ろすホテルとなった。会を重ねるごとに参加者が減るのは寂しいが、旧友との情報交換や学生時代の昔話しは楽しいもので、今回は12名の仲間が駆けつけ会を盛り上げてくれた。



翌日は有志でホテル近くの青峯山の古刹正福寺を訪れ59期生の戦没者慰霊碑を参拝し、雨上がりの境内を散策し帰路に着いた。

参加者 井上、上野、武部、田中（忠）、中村、

岩田、清水、藤間、富久田、濱口、原、水谷

会場 鳥羽シーサイドホテル

幹事 岩田 記

還暦同窓会 昭和54年卒 94期〈高専8期〉

昨年2018（平成30）年は我々1958（昭和33）年生まれの者にとりましては、還暦にあたります。

2017年6月の本校同窓会が名古屋で行われた際に参加しました私は、同期の顔ぶれがいかほどかをやや楽しみに会場に到着しましたが3名しかなく、このまま還暦の節目の歳に何もなく終わってしまうのも寂しいと思うと同時に、また一方で年を重ねる毎にそれなりの同窓会への思い入れが一段と強くなり、もっとたくさんの同期が来ているものと想像していました。早速参加していた同期の鈴木君と北地君に持ち掛け、還暦同窓会の実行を提案し、数人の先輩のアドバイスを受けながら、中部圏周辺の数人を還暦同窓会発起メンバーとして、航機両科8名（鈴木、北地、服部、寺田、増島、大窪、藤井、西濱、敬称略）の協力頂きながら、開催までの一年余りの間に2回程名古屋に集まり、具体的に進めてゆくことにしました。幹事は航海科 鈴木君、機関科 藤井君でお願いしました。

我々高専8期生（昭和54年卒）は、過去において全国的で大掛かりな同窓会は開催しておらず、その意味では一つの節目として還暦同窓会を開催し、卒業以来40年振りに集う事もそれなりに有意義で、皆さまから楽しんでもらうことになると考えました。

なるべく多くの同期に集ってもらおうべく、同期卒業生はもちろん同期入学生で途中退学した皆さんにも発起メンバーで手分けして連絡先を探り、可能な限り開催の連絡をしました。同期入学者115名を含め総勢128名中、連絡先がわかる100名程にはがきで通知しました。おかげを持ちまして28名の人数が集いました。

開催地選定はやはり中学を卒業した15歳の歳にいきなり全寮制の寮に入れられ、5年間の青春時代を過ごした鳥羽の地で、九州や関東方面からの遠方や海外から駆け付けてくれたお二方もいることから、場合によっては将来この地にめったに来られない事もあるだろうし、母校や暁寮を訪問できるように、一般公開している海学祭期間中に設定しました。

2018（平成30）年10月20日（土）夕刻より一泊二日で鳥羽シーサイドホテルにて行いました。

いよいよ当日ホテルでの集合時間が近づくにつれて、かつての同じ釜の飯を食った仲間といえども40年ぶりの再会となると、見事にテカテカに輝く頭皮や白髪の顔ぶれでは、かつての旧友も誰が誰だか

わからず、お互いに恐る恐る遠慮がちに小声で名前を発しながら確認しつつ「おまえかー」をあちこちで連発し、その変貌する姿にお互い驚愕する様子が見受けられました。

ひと風呂浴びていよいよ会場に集合し宴会への運びとなりますが、北地君による本同窓会の概略予定の説明、続いて機関科幹事の藤井君の同窓会開催の経緯等の挨拶から始まり、物故者への黙祷、宴会開始前のまだしっかりした顔つきの状態で記念撮影を済まし宴会に入りました。当然ながら積もる話も騒がしいくらいに盛況になり、酒が入ることにより今となれば時効となる昔話や、一年生の時に発生した集団脱寮事件の話等、忘れかかった事案を回想したものです。各人には一人一人近況報告をしてもらい、仕事、家族の様子を語っていただきました。

卒業時の昭和54年は海運界も不況で、船員への就職は決して良くありませんでした。海上においてはその後船員緊急雇用対策等の大きなうねりが襲い掛かり困難もありましたが、陸上の皆さまも各職場で元気である姿には、かつての15歳の少年の若くて元気ある勇姿がだぶりました。

最後には校歌、寮歌を元気よく発声し、航海科幹事の鈴木君の挨拶で一次会を終えました。場所を改め二次会を開始しましたが、やはり全員部屋に戻ることなく、幾分静かになったものの夫々の話題に相変わらず花が咲き、あっという間に23時に達し閉会となりました。有志は各部屋に戻ってまたもや三次会に入り、延々6時間ほどの時間に若かりし頃の5年間の思い出がぎゅうーと凝縮されて、とても濃厚な時間を過ごす事が出来ました。



前列左から 野路、鈴木(田中)、西濱、寺田、遠山、藤野、
浜岡、岩澤、中瀬、北岡
二列左から 清水、服部、進藤、小山、曾我、佐々木、大窪、
増島
三列左から 北地、吉村、中島、岩瀬(水島)、芝、永井、
鈴木、藤井、島田、地頭所

(敬称略)

翌日ホテルの特別配慮による母校への直行便バスで希望者は母校に集結し、海学祭、鳥羽丸を見学したり、暁寮へは石田副校長の御配慮をいただき、同じく寮務職員で女子卒業生の後輩の案内の元、45年前に入寮した同寮の内部に足を踏み入れることが出来ました。一部女子学生の棟が建設されていたり、模様替えをしているものの、自習室、当時の大風呂や洗濯場を見ると懐かしくほろ苦い記憶がよみがえります。当時は夜間に急きょ大風呂の掃除の召集がかかると、デッキブラシを奪うように持っていち早く現場に駆け付けたりしたものです。ちなみに現在は大風呂の掃除は業者委託しています。青春時代の5年間を過ごした寮には各自それなりの思い出があるはずで、皆さん当時を思い出し感慨深げでした。

こうして40年ぶりに母校に集った28名も翌朝にはチリチリに散って、具体的な再会を決めることなく、しかしながら近い将来また声をかけ易い基盤を作れたものと思っております。母校の更なる発展と高専8期生の皆さまの今後のご健勝と益々のご多幸を祈願し報告いたします。

(西濱 記)

昭和55年N卒95期〈高専9期〉 5回目の年男。

2019年1月12日、13日、S55N同期で、還暦祝いを兼ね、卒業以来10回目の定期同期会を実施した。我々の同期会は3年毎に関東、中部、関西で持ち回り制となっており、今回は中部が幹事。一緒に卒業できなかった者、卒業以来初参加の者、先に還暦を迎えた者もいるが、関東組6名、中部組7名、関西組8名、総勢21名の参加となった。

場所は知多半島河和駅から高速フェリーで約30分の篠島の南風荘。

(南風はH12守屋英孝氏の同級生の実家である。)

フェリーの船窓からは神島も見えるし、第2の故郷である鳥羽も覗える。料理は河豚を始め伊勢湾の豊富な海の幸を堪能した。

学生時代には60歳は老人だと思っていたし、当時の会社であれば定年は55歳が普通だった。今は定年が伸びたと言え、還暦はやはり人生のターニングポイントで、そこから余生を全うするのだろうと考えていた。2017年には60歳以上の就業者数は1,328万人となり過去最高である。我々の時代は簡単には引退できない運命になっているようだ。

入学時は紅顔可憐だった美少年も、皆何処から見

でもりっぱな爺になった。しかし学生時代の話に盛り上がると、いつまでたってもその顔は学生時代の若々しい顔とラップするから面白い。コンサート帰りに近鉄伊勢市駅のホームで、偶然見た岡田奈々は清廉潔白な天使のようだったし、山口百恵の主演映画である「潮騒」は何度も見た。彼女たちは同い年だ。若い時の記憶はついこの間のようで、決して消えないのである。

入学時は第一次オイルショック、卒後時は第2次オイルショック。決して就職活動は順調とは言えなかったが、殆どが大なり小なり船員の道へ進むことができた。しかしその後の船社の淘汰はご存知の通り。殆どの同期生は転職組だ。現在の職種は水先人、船舶管理会社、海保、水上警察、港管理組合、港湾物流企業、変わり種では、建築会社の設計、ソフト開発、インテリアデザイナー等。入学当時の夢は船員になる事、船長になる事。今の自分を想像した者は果たして何人いただろうか。現在も一人を除き皆現役、それぞれ人生の岐路に立っては昭和、平成の時代をしぶとく、遅しく、生き抜いて来たものばかり。転職組の話は非常に興味深く新鮮で面白い。其れなりに60年生きてきた証でもあり、歴史で有る。

実は浩宮皇太子は同級生である。

5月1日には年号が変わり新しい時代に入るが、さて5回目はどんな年になるのだろうか、米中貿易戦争の結果次第といったところだろうか。英国の迷走は何処へ行き着くのか。息子として、夫として、父親として、会社人としてそれぞれ色々な立場を持っている。それなりに60年間の人生で残してきたもの有るか、これから家族や社会に残せるものは有るのか。また3年後のみんなの元気な姿を見ることが楽しみで仕方ない。最後の2名になるまでは継続することを誓い合った同期会であった。



投稿：S55N卒業 浅野 清
記：平成31年1月20日



昭和48年卒(88期)同期会 令和元年6月1日

今年の3月頃、同期の江尻君から仙台在住の伊藤君が皆に会いたいと言っている。

鳥羽で総会があるので、前日に同期会をやらなかと連絡を受けた。本人はメールが苦手なので小生に頼んできた。当初は16名参加予定であったが、主役の伊藤君が検査入院で参加できなくなり、他の5名も病気や急な私用ができ参加できなくなった。しかし、山形在住で仙台に単身赴任している大澤君が愛車で遙々来てくれたのは、良かった。55歳から5年ごとに同期会をやっているが、このようなミニ同期会はその合間でやりだしている。現役引退で時間余裕ができた人、現役を続けながら都合をつけて参加してくれた人と事情は様々であるが、楽しいひと時を過ごせたのは全員同じ気持ちと思う。古希までにもう一回はやってみたいと思っています。



6月1日旅館【萬栄】JR三瀬谷駅前にて。

参加者(敬称略)

N科は鹿野、水野、村木、横井、E科は内山、江尻(奥様同伴)、大澤、神子、久米、西村。

昭和43年卒(83期)同期会

「還暦同窓会」からあっという間に10年が経ち、「古稀の同窓会」を令和元年6月1日「青春の故郷鳥羽」で開催した。

入学時の同期生は、航機合わせて88名であった。同期会の案内ハガキを出せたのは、住所の分かっていた64名、その内2名は住所が変わり不達であった。(同期生の誰もが消息を知らない住所不明者10名、物故者12名)結局出席者は23名であった。還暦同窓会の約半分の人数である。専攻科卒業から49年誰もが平等にそれなりに年を取った。近況を報告し合い暫らくすると鮮明に記憶が甦る。

風呂上がりに浴衣姿で廊下を歩いてくるのは、禪姿で歩いていた相撲部の小松君か昔のままである。開け放した部屋から聞こえてくる特徴ある笑い声は、司かな。寮の夕食の飯がまずい、こんな御飯食べられないと言った良家育ちの服部君。消灯の時間に鳥羽発東京行き夜行列車の汽笛が聞こえてくる、あれに乗れば東京に帰れるのにと行って毛布をかぶり二段ベッドに潜り込んだ小甲君、……みんな昔のままである。

不思議と思いだすのは楽しかったこと、面白かったこと、ポジティブな思い出ばかりである。年を取ると、昔は良かったあの頃は楽しかったと思うのは、自分の人生は楽しかった良い人生だったと思いたいからだろうか?宴会が終わりそれぞれの部屋に戻り肩振り(船員用語で雑談)眠りについたのは0時を過ぎていた。昔の古い友人に会うのは良いものだ、次回開催は喜寿かな……。



追記

これからは、同期会案内のハガキが届いたら開催場所をしっかりと確認して下さい。開催場所が「天界」や「天上の樂園」等の場合、小生多忙です、ほかに外せない予定があります、今回は欠席しますと返事してください。

それでは、お会いできなかった同期生の皆さんもお元気でまたお会いしましょう。

世宮・三井(鶴口)

その他の投稿記事

2019年5月29日(水)

横浜港カッターレース報告 (記事抜粋)

幹事 菅原 秀樹

「鳥羽商船 シニア艇 タイム 3分04秒09」

「鳥羽商船 一般艇 タイム 3分01秒87」

第36回横浜カッターレースは、多数のご参加をいただき、無事終了しました。

結果

- シニア艇 レース2位着 参加20艇中8位
今年も入賞かなわず スタートダッシュに課題か？

“来年こそ！”

- 一般艇 4艇中1位でゴールも 予選通過ならず
決勝進出には30秒短縮必要

“やればできる？ まずは10秒！”

レース後、全船協合同懇親会での反省会 冷たいビールが進み、楽しい1日を振り返りました。

今年も、楽しく、頑張りました。

皆様、ご協力ありがとうございました。

参加者：

	シニア艇	一般艇 (若手)
艇長	内藤 文司 S51N	北端 大志 H8N
艇指揮	藤本 良夫 S51N	山本 悦史 S61E
漕手	稲益 義久 S51N	小脇 齊 H1N
	田中 伸一 S61E	長谷 正樹 S63E
	林 俊克 S51N	遠藤 蔣実 H21N
	小林 康広 S51N	— H20E
	蜂谷 守 S52E	塩崎 誠也 H24E
	菅原 秀樹 S51N	船水 尋瑞 H18N



全員集合 来年も集まりましょう！

四日市港カッター大会 (記事抜粋)

中部支部 S61N 山口 淳

今年も昨年に引き続き令和1年8月4日に開催された第32回四日市カッターレース大会に、中部支部の若手中心のメンバーで参加をいたしましたので報告いたします。

参加メンバー：

艇長 川瀬 陽介(H11N)

艇指揮 守屋 英孝(H12N)

漕手 宮脇 一将(H12N) 東 和宏(H12E)

小林 拓(H17E) 仲林 涼(H24E)

西山 和樹(H27E) 黒坂 友哉(H30E)

控え 田畑 智史(H10E) 藤村 純司(H21E)

監督 山口 淳(S61N)



昨年同様の猛暑の中、午前9時より男子一般は予選17レースが行われました。

昨年の雪辱を果たすべく準決勝進出を目指して、予選第2レース4コースで、万全の態勢でレースにのぞみましたが、結果は第2レース4艇中4位で全体では66チーム中31位でした。来年は運を頼みに準決勝進出を目指したいと思います。

ユニフォームの同窓会のポロシャツを着用して、一致団結し力を合わせてオールを漕ぎ汗を流し、応援にかけつけていただいた同窓生の方々々と声を枯らして声援を送っていると、世代を超えて商船健児魂が受け継がれている事を実感できた大変有意義な一日でした。捲土重来を期すため、来年も必ず参加いたします。

最後に同窓会本部より助成金の交付に加え、レースで必要なのぼり旗の支給をしていただきました。多大なるご支援に対して、厚くお礼申し上げます。誠にありがとうございました。



特集

「我等! 鳥羽商船」 後編

我等! 鳥羽商船

小島 智恵

商船学科 准教授

平成14年航海コース卒業の小島智恵（旧姓梅野智恵）です。平成26年4月より本校教員として、働いています。



本校の教員として、1年生から専攻科の学生と関わる機会が多くあります。その中で、学生の成長する過程を身近で見て、感心することがあります。今回は、我等、鳥羽商船!というテーマで、商船学科航海コース5年生の鳥羽丸実習（和歌山、神戸）の学生の活躍を紹介します。

私は、6月3日(月)から6月7日(金)に行われた鳥羽丸実習に次席一等航海士として乗船しました。授業の関係から、3日(1日目)の夕方出港前に鳥羽丸に乗船しましたが、学生は、8時50分に乗船し、実際に実習で航海する航海計画（池の浦～和歌山～神戸）を行い、航路を各班で調査しました。これまでは、担当する航海士が航海計画を立案し、コースラインが記入された状態での実習開始ですが、今回の実習は、学生が実際に航海計画を立案しました。

事前に鳥羽丸船長の齋心先生は、学生に対して、この実習は、学生主体で自分たちの力で鳥羽丸を目的地にもっていくと方針が示されました。学生は船長から目的地を事前に聞き、5月中旬頃から、水路誌を読み、学校にあるECDISでコースラインの記入を行いました。その他に出港日当日は、コンディション計算（ドラフト、サウンディング）や和歌山や神戸で行われる一般公開や体験航海の計画を全体で話し合いました。そして、予定通り17時に池の浦を出港しました。出港時には、先生方やたくさんの学生がUWでお見送りをしてくれました。このお見送りで、乗船している学生の気持ちは、航海モードに一気に切り替わります。航海中は、少し船酔いをする学生もいましたが、自分たちの力で鳥羽丸を目的

地にもっていくという意識を持っているため、弱音を吐く学生はいません。

そして、次の日の6月4日(2日目)の9時に和歌山日高港に入港しました。日高港では、一般公開や体験航海、支援物資陸揚を行い、夕方には和歌山高専の学寮のお風呂を貸していただき、その後、学生同士の交流会を開催していただきました。学生たちは、初対面ですが、各学校の違いや自分たちの勉強している分野等の話をしたり聞いたり、とても楽しかったようです。

6月5日(3日目)8時30分に日高港を出港し、次の目的地の神戸へ向かいました。航海中は、当直班が主に船橋で実習をしていましたが、その他の学生も自分たちで狭水道通過時や主要航路となるころでは意欲的に船橋にいる学生の姿がありました。14時30分にOBの方や先に停泊されていた広島丸の乗組員方々に綱を取っていただき、無事に神戸に入港しました。この時、学生は達成感を感じていたと思いますが、私たち乗組員も達成感を大に感じた瞬間でした。

6月6日(4日目)午前中に神戸港で一般公開を行いました。学生は鳥羽丸を見学してもらいたいという思いから、自分たちで考えて行動し、保育園児や一般の方に声をかけて、たくさんの方々に鳥羽丸を訪船していただきました。私たちが鳥羽丸の呼びかけをするより、実際に実習をしている学生が呼びかけ、説明をする方が効果大であると改めて思いました。午前中の一般公開を終え、14時に神戸港を出港し、池の浦を目指します。

6月7日(5日目)とても穏やかな航海で9時に池の浦に入港しました。雨が降ってしまった為、最後のお楽しみである安着BBQが、鳥羽丸教室での開催となりましたが、学生たちは楽しそうに安着を祝っていました。

この時期の学生は、就職活動や進学受験などで、忙しい時期ではありますが、自分たちで時間を調整し、意欲的に準備して実践する姿を見て、航海士になるための心構えはできているのかなと感じました。また、大型練習船の乗船時期が変更され、4年生の後期に5ヶ月間乗船し、様々なことを体得することで、航海士になるためには、何が必要なのか、より明確になるのではないかと考えています。学生が持っている力が鳥羽丸を動かし、この5日間で目的を一つ一つ達成していく様子を身近で感じさせてくれる学生こそが、我等、鳥羽商船!だと思います。

事務局だより

☆本年は、新元号となった事を機に幅広い年代の同窓からの寄稿を事務局よりお願いしました。特集記事は、題して「我等 鳥羽商船」として記事を寄せていただきました。この編集をする中で、大先輩方が過ごされた過酷な時代が有りそして現在が有るという事を忘れてはならないと深い感銘を受けました。ご高齢にもかかわらず今なお矍鑠とされておられる大先輩方に畏敬の念を覚えた次第です。また、今回の企画に応じて特集記事に寄稿していただきました方々には感謝申し上げますと共に御礼申し上げます。

事務局からのお祝いとお知らせ

1. 事務局保管資料の整理事業についてボランティア募集

事務局には古くからの写真や記録、8ミリ、16ミリフィルムの資料や同窓からの寄贈品が未整理のまま保管されています。このままの状態では、これらの資料が益々劣化し、埋没してしまう虞があるので、これら保管品の整理整頓を行いたいと考えています。このため整理作業のボランティアを募集します。協力して頂ける方は同窓会事務局まで連絡を下さい。遠隔地の方には書類を宅急便で送り、整理後事務局に返送して頂く方法を考えています。特に8ミリ、16ミリフィルムの映写機材をお持ちの方には、フィルムの内容確認等を依頼したいです。本校近在の同窓には事務局へ集合して整理作業をする、又は資料を持ち帰って、若しくは資料を宅急便で送付し整理後返送していただく方法も考えています。皆様ご協力よろしくお願いします。

2. 船歌DVD作成事業についてボランティア募集

本年の同窓会懇親会で、校歌や船歌の生演奏、声楽家による歌の披露を行いました。私達が歌っていた校歌や寮歌の他、海のロマンス、練習船の歌等どれも懐かしく胸が熱くなる歌でした。懇親会で歌を聞かれた多くの方からも好評を得ました、又同時にDVDを作ってほしいとの意見もありました。

これら船乗りの愛唱歌が次第に歌われなくなり、忘れ去られてしまうのは残念でなりません。事務局では、これら船歌のDVD作成することを検討しており、試作のための費用も少額ですが予算計上しています。については、DVD作成事業にボランティアとして参加していただける方を数名募集します。応募して戴ける方は主にインターネットで情報の交換ができる方及び同窓会事務室に来ることができる方とします。

3. 連絡先変更、勤務先変更などの連絡について

同窓会会報等を発送しても宛先不明で会報等が返送されて来ることが多くなっています。今後は宛先不明者への会報等の発送は無駄と成る為に行いませんのでご理解ください。また個人情報保護に係る事ですが、名簿等への情報掲載の可否も合わせて連絡をして頂きますようにお願いします。

4. 同窓会会費納入について

同窓会の活動は多くの同窓生の会費により運営されています。昨年会費収入は10%ほど増加しましたが、工学科と若い世代の納入率は依然と低い状態です。同窓会が永続するためには、会員の理解と支援が必要です。大正14年の創設から94年幾多の同窓諸氏が同窓会を支え続け今日に至っております。この事は私達同窓会の誇りでもあります。敢えて「後輩達よ、諸君のご理解と協力を期待します。」

事務局長 江崎隆夫 (S44E)、事務局員 西山 明 (S50E)、糸川 (H16I)



同窓会会員名簿 平成30年度版 販売中 (価格 3,300円)

住所変更の連絡を事務局へお願いします。





創立90周年（昭和44年）に建立された慰霊碑



記念資料館内にある同窓会事務室



記念資料館内に展示されている額



記念資料館内に保管されている校旗

スポンサー広告募集中

校歌

紫匂うあさまの高嶺
緑さやかに大空澄みて
情もすがし若人我ら
かおる伝統輝く歴史
礎かたきこの学び舎に
ああ攻玉の訓仰がむ

潮の香高き錦が浦辺
握る魯權に力は満ちて
命ぞあふる海の子我等
吹き散る飛沫わきたつ血潮
茜かがよふ水平線に
ああ旭日の光望まむ

船路もはるか大わたつみの
八重のしき波荒潮たぎり
心はずむ海鳥我等
飛び立つ羽音とどろく怒涛
力たゆまぬ若き翼に
ああ海運の基定めむ



スポンサー広告募集中



一、渺茫遠く涯みなぎ
太平洋の荒雄波
汀を洗う鳥羽港に
校旗ぞ高くひるがえる

旧校歌



二、思えば明治二四年
近藤翁が憂国の
真心こめてすえにけむ
礎 固し万代に



三、学びの窓の朝夕に
心の舵をしかと取り
知識の真珠かきつみて
いざ諸共に船出せん



四、氷山流るる北海の
風は息吹を送りきて
膚を貫く船橋に
行く手を守る冬の夜半



紅顔可憐な美少年が
商船学校の校内の
練習船のメンマスト
トップの上に立ち上がり

白菊の歌
霞めるみ空に消え残る
朧月夜の秋の空
身にしみ渡る夕風に
背広の服をなびかせつ



故郷の空を眺めつつ

ああ父母は今如何に
我が恋人は今何処
少年左手に持つものは



月の光に照らされて
かたえの友と語るよう
もこのものは故郷の
外山の陰に咲き残る

